

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

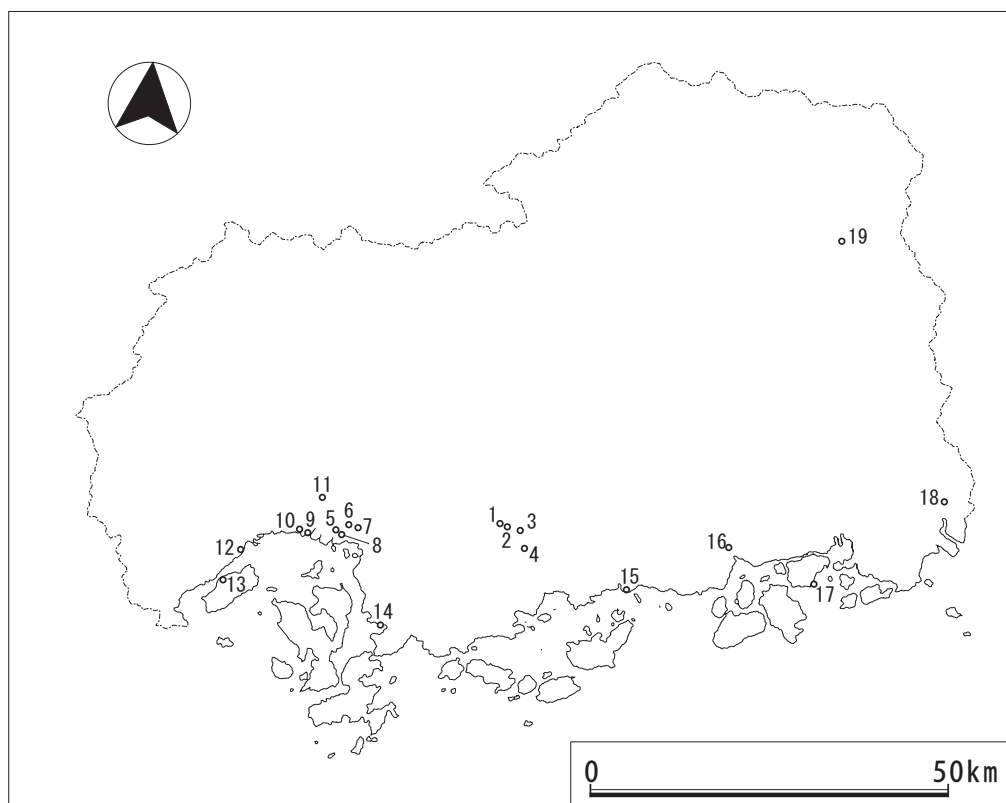
Title	1. 開発に伴う協議と立会・試掘調査の概要（2017年度）
Author(s)	広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門,
Citation	広島大学埋蔵文化財調査研究紀要 , 11 : 25 - 85
Issue Date	2020-03-31
DOI	
Self DOI	10.15027/49010
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00049010
Right	
Relation	



1. 開発に伴う協議と立会・試掘・発掘調査の概要（2017年度）

1. はじめに

広島大学が所管する広島県内の施設所在地は、本部キャンパスが位置する東広島市および統合移転する以前に本部キャンパスなどが所在した広島市を中心に広島県各地に分散しており、合計 27ヶ所を数える（大学・附属学校校舎等を中心とする敷地 7ヶ所、研究所等施設敷地 7ヶ所、課外活動施設敷地 4ヶ所、職員宿舍敷地 7ヶ所、その他 2ヶ所）。これら大学関連施設において 2017 年度に埋蔵文化財に関連した開発事業に伴って 49 件の協議を行った。また、東広島地区の遺跡保存整備が 1 件あり、発掘届（文化財保護法



第 11 図 広島大学の校地所在地図（職員宿舍・その他を除く）

1. 東広島地区
2. サイエンスパーク地区
3. 西条三永地区
4. 下三永地区
5. 東千田地区
6. 霞地区
7. 東雲地区
8. 翠地区
9. 観音地区
10. 庚午南地区
11. 三滝地区
12. 廿日市地区
13. 宮島地区
14. 呉地区
15. 竹原地区
16. 三原地区
17. 向島地区
18. 春日地区
19. 帝釈未渡地区

第5表 2017年度（平成29）広島大学における開発に伴う埋蔵文化財協議・発掘届一覧

	件名	対象面積	協議書・発掘届提出日	対応
東広島地区				
1	(理) E棟北スロープ補修*	0.17 m ²	2017年4月	工事
2	(文) 玄関前ロータリー舗装補修工事	約10 m ²	2017年5月	工事
3	第5テニスコート南埋設給水管漏水修理	1 m ²	2017年5月	工事
4	東大橋周辺階段等設置工事	400 m ²	2017年5月	試掘
5	(生) 圃場感染対策道路改修工事	53 m ²	2017年6月	工事
6	(東広島) 発見の小径周辺環境整備工事	50 m ²	2017年5月	工事
7	(東広島) 山中地区屋外給水管漏水修繕	7.1 m ²	2017年5月	工事
8	郵便ポスト更新	1.0 m ²	2017年6月	工事
9	(東広島) 学生会館玄関前車止め設置工事	0.063 m ²	2017年6月	工事
10	(東広島) 中央図書館北掲示板設置工事	0.72 m ²	2017年6月	工事
11	(東広島) 東大橋周辺整備工事	484.61 m ²	2017年7月	試掘
12	(理) 北側マンホール蓋補修工事	0.88 m ²	2017年7月	工事
13	(工) D4棟実験室改修工事	13.2 m ²	2017年7月	工事
14	(東広島) 附属農場埋設給水管漏水修理	3 m ²	2017年10月	工事
15	(サイエンス) イノベーションプラザ*玄関前段差補修工事	5.2 m ²	2017年10月	工事
16	(東広島) 野球場ブルペン屋根設置工事	5.28 m ²	2017年12月	工事
17	西グラウンド表層整備工事	約12,128 m ²	2017年12月	工事
18	(東広島) 環境整備（かがら道舗装）工事	1531.8 m ²	2017年12月	工事
19	(東広島) 環境整備（総科ゲート廻り舗装）工事	807.89 m ²	2017年12月	工事
20	(東広島) 道路排水補修（北体育館東側道路）工事	4.8 m ²	2018年1月	工事
21	(東広島) 道路舗装補修（先端研西側道路）工事	135.3 m ²	2018年1月	工事
22	(東広島) 山中地区屋外埋設給水管漏水修繕	12 m ²	2017年12月	試掘（立会）
23	鏡西谷住居跡擬木設置工事	100 m ²	2018年1月	試掘（立会）
24	(東広島) 第5テニスコート南休憩所土間補修工事	21.75 m ²	2018年1月	工事
25	(東広島) 東大橋東側ウッドチップ舗装整備工事	122.4 m ²	2018年1月	試掘（立会）
26	(東広島) 第1テニスコート内水栓柱取替	0.25 m ²	2018年1月	工事
27	(文) 北側進入路舗装補修工事	99.61 m ²	2018年1月	立会
28	(東広島) 東大橋周辺ヤマツツジ植栽	39.25 m ²	2018年2月	試掘
29	(生) 講義管理棟C北側駐輪場設置	約45 m ²	2018年2月	工事
霞地区				
1	(霞) 研究棟C改修機械設備工事	201 m ²	2018年1月	立会
2	研究棟C改修電気設備工事	2 m ²	2018年8月	工事
3	(霞) 臨床研究棟周辺等駐輪場取設工事	約260 m ²	2018年7月	立会
4	(原医研) RI-C棟屋外排水管改修	約18 m ²	2018年6月	工事

5	(霞) 研究棟A玄関キャノピー取設工事	約 20 m ²	2018 年 8 月	立会
6	(霞) P1 立体駐車場横ゲート改修	約 500 m ²	2018 年 11 月	立会
7	(霞) 看護師宿舎等舗装改修	約 2200 m ²	2018 年 11 月	立会
8	(病) 看護師宿舎防災設備基幹線取替	30 m ²	2018 年 11 月	工事
9	(霞) 研究棟C改修その他工事	約 30 m ²	2019 年 1 月	立会
10	(病) ロータリーサクラ移植工事	約 550 m ²	2019 年 1 月	立会
11	(病) YHR ミュージウム新営工事	約 700 m ²	2019 年 2 月	試掘
12	(霞) 臨床第 2 研究棟 1 階解剖室等改修工事における外構工事	約 50 m ²	2019 年 3 月	立会
東千田地区				
1	(東千田) 構内舗装補修	約 70 m ²	2017 年 6 月	立会
東雲地区				
1	(東雲) テニスコート東フェンス補修	約 1 m ²	2017 年 4 月	工事
宮島地区				
1	(宮島) 道路アスファルト舗装補修*	68.5 m ²	2017 年 10 月	工事
2	(宮島) NTT 電柱新営工事***	約 0.35 m ²	2018 年 3 月	立会
竹原地区				
1	実験研究棟外壁改修工事	約 9 m ²	2017 年 10 月	立会
三原地区				
1	中学校屋外散水栓用給水管修繕	約 30 m ²	2017 年 8 月	立会
2	屋外配水管漏水修理工事	4 m ²	2017 年 8 月	工事
春日地区				
1	(春日) A棟北側雨水管補修工事	約 4.8 m ²	2017 年 6 月	工事

件名の最後に*印を付したものは学内協議のみ、**印を付したものは大学外の事業者が開発原因者である

第 93 条) 1 通、三原地区の開発工事に伴って発掘届 (文化財保護法第 93 条) 2 通を提出した。東広島地区 (東広島市) 東大橋周辺ヤマツツジ植栽の試掘調査、宮島地区 (廿日市市) NTT 電柱新営工事 (行政との協議は NTT が実施) の立会調査は次年度実施とした。また、前年度協議した東広島地区北グランド表層整備工事 (鴻の巣北遺跡、文化財保護法第 93 条)、(総) 研究棟 A101 室実験排水等取設工事について着工した。

本年度の開発事業については、協議回答等に基づき、立会調査 14 件 (合計 19.5 日)、試掘調査 2 件 (合計 3.5 日) を実施した。本年度も東広島地区において多くの開発事業が行われたが、立会調査は東広島地区が全体の 1/3 で、多くは霞地区が占めている (第 5 表)。立会調査件数で見ると、東広島地区 4 件、霞地区 9 件、東千田地区 1 件、竹原

地区1件、三原地区2件である。時期の明確な遺構・遺物の検出はほとんど見られなかった。また、試掘調査は、東広島地区1件、霞地区1件であった。東広島地区は東大橋周辺階段等設置工事に伴うもの、霞地区は（病）YHRミュージアム新営工事に伴うものである。霞地区では2013年度の新外来診療棟外構工事で検出した石垣遺構等の遺構の検出が予想されたが、明確な遺構は確認できなかった。

2. 試掘・立会調査の概要

次に、地区ごとに、試掘調査、立会調査の概要について述べる。

東広島地区（東広島市）

1) 東大橋周辺階段等設置工事

所在地 東広島市鏡山一丁目2番2号



第12図 2017年度東広島地区の試掘（立会）調査位置図（縮尺1：20,000）

(1. 東大橋周辺階段等設置工事、2. (東広島)東大橋周辺整備工事、3. 鏡西谷住居跡擬木設置工事、4. (東広島)山中地区屋外埋設給水管漏水修繕、5. (東広島)東大橋東側ウッドチップ舗装整備工事)

調査期間 2017（平成29）年6月5日

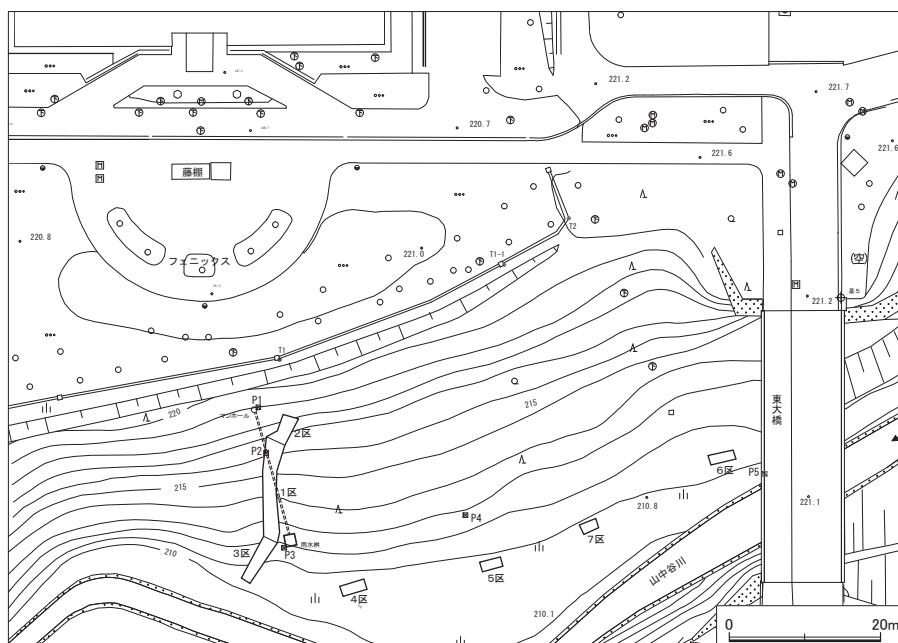
調査面積 約400㎡

調査者 藤野次史

調査概要 東大橋周辺階段等設置工事に伴って試掘調査を実施した（第12図1）。調査は、自然地形が残されていると推定される歩道・階段設置予定地を対象として実施した。斜面部は階段を設置することから掘削深度が約0.7mと深く、全域の調査を実施した。川沿いの低地部は深さ0.3m程度と浅く、一部盛土が行われていることなどから、まず対象地のうち数ヶ所を選んで調査を行い、遺跡の有無や堆積状態などを確認した後、さらに調査が必要と判断された場合には調査地点を追加することとした。斜面部に1～3区、川沿いの低地部に4～7区を設定した（第13図）。

1区 斜面部の中央部に設定した調査区で、長さ約13m、幅約2mの規模である。0.2m程度掘り下げた段階で、三角形土留めコンクリート枠が露出し、1区全体に擁壁が設置されていることを確認した（写真1-3）。

2区 1区上方の斜面部に、1区と連続して設定した調査区である、長さ約4m、幅約2mの規模である。調査区南端部の1区との境界付近ではコンクリート枠（1段分）を確認し



第13図 東大橋周辺階段等設置工事調査区平面図（縮尺1：1,000）

（1～7区は調査区である。）

た。そのほかの部分には深さ0.7～1mまで調査した。堆積土は4枚に区分され、上層より、表土、黄褐色砂質土、暗灰褐色砂質土（灰色粘土ブロックを含む）、灰褐色砂質土（灰色粘土、橙色粘土ブロックを多量に含む）の順である。灰褐色砂質土以下は造成土と思われ、統合移転に伴う盛土と判断された。当初、さらに北側へ約3m調査する予定であったが、かなり無理な態勢でバックホウを使用する必要があることや灰褐色砂質土以下は造成土と判断されたことから、調査を中止した。

3区 1区南側隣接地の斜面裾から低地部に設定した調査区で、長さ約6.5m、幅約2mの規模である。地表下約0.7mまで調査した。全域で大小の角礫が多数包含されていた。堆積層は、大きく4枚に区分され、上部より、表土、黄褐色砂質土、灰褐色砂質土、暗灰青色砂質土の順である。大小の角礫は、黄褐色砂質土、灰褐色砂質土を中心に包含されており、暗灰青色砂質土は調査区の南半で確認した（写真2-2）。山中谷川に隣接する場所であり、一帯が湿地状を呈していた時期の堆積物の可能性がある。

4区 低地部の歩道西部に設定した調査区で、3区南端から約12m東に位置する。低地部工事予定の歩道西部にあたる。東西3m、南北1.2mの規模である。地表下約0.4mまで調査した。表土下は、黄褐色砂質土で、大小の角礫が多数包含されていた。

5区 低地部の歩道中央部に設定した調査区で、4区の東約15.5mに位置する。東西3m、南北1.2mの規模で、地表下約0.4mまで調査した。表土下は黄褐色砂質土で、4区と同



1-1 調査前の状況（発見の小径）（東より）



1-2 4区調査状況（北西より）



1-3 1区完掘状況（南西より）

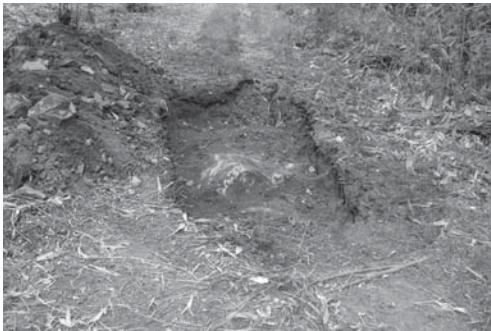
写真1 東大橋周辺階段等設置工事に伴う
試掘調査 (1)



2-1 2区完掘状況（南東より）



2-2 3区完掘状況（南東より）



2-3 4区完掘状況（南東より）



2-4 5区完掘状況（南東より）



2-5 6区完掘状況（南東より）



2-6 7区完掘状況（南東より）

写真2 東大橋周辺階段等設置工事に伴う試掘調査（2）

様の堆積状態であった。大型の角礫（長さ40～50cm程度）を多く含んでいた。

6区 低地部の歩道東端部に設定した調査区で、5区の東約30.5mに位置する。東西3m、南北1.2mの規模で、地表下約0.5mまで調査した。堆積層は大きく3枚に区分され、上層より、表土、黄褐色砂質土（角礫を多く含む）、暗灰青色砂質土の順である。暗灰青色砂質土は

地表下約0.3m以下に堆積していた。3区で確認した暗灰青色砂質土と同質の堆積層である。

1～6区の調査ではいずれも、遺構、遺物は発見されなかったが、6区の堆積状況が4区、5区と異なること、4区と5区の距離に比べて、5区と6区の間がやや離れていることから、5区と6区の間（6区の西約16.5m）に7区を設定した。

7区 東西2m、南北1.2mの規模で、地表下約0.4mまで掘削した。6区と基本的に同じ堆積状態であり、地表下約0.3m以下に暗灰青色砂質土が堆積していた。上層の黄褐色砂質土には大小の角礫が多数含まれていた。遺構、遺物ともに確認されなかった。

2) (東広島) 東大橋周辺整備工事

所在地 東広島市鏡山一丁目2番2号

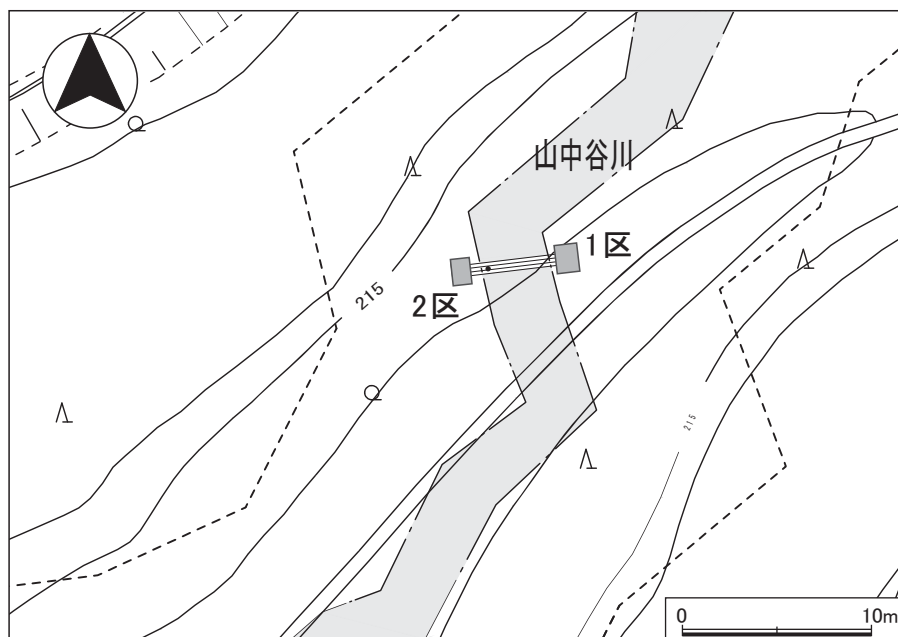
調査期間 2017（平成29）年10月18日

調査面積 484.61 m²

調査者 藤野次史

調査概要 (東広島) 東大橋周辺整備工事に伴って試掘調査を実施した（第12図2）。東岸の基礎掘り方を1区、西岸の基礎掘り方を2区として調査を実施した（第14図）。

1区 山中谷川に面する川岸に位置し、西端部は崖状であり、調査範囲は西側に傾斜している。平面梯形で、北側東西幅1.1m、南側東西幅1.2m、東側南北幅1.35m、西



第14図 (東広島) 東大橋周辺整備工事調査区平面図 (縮尺1:450)
(濃い灰色四角は調査区を示す)



3-1 調査区全景（東より）



3-2 1区掘削状況（西より）



3-3 1区の完掘と南壁土層堆積状況（北より）

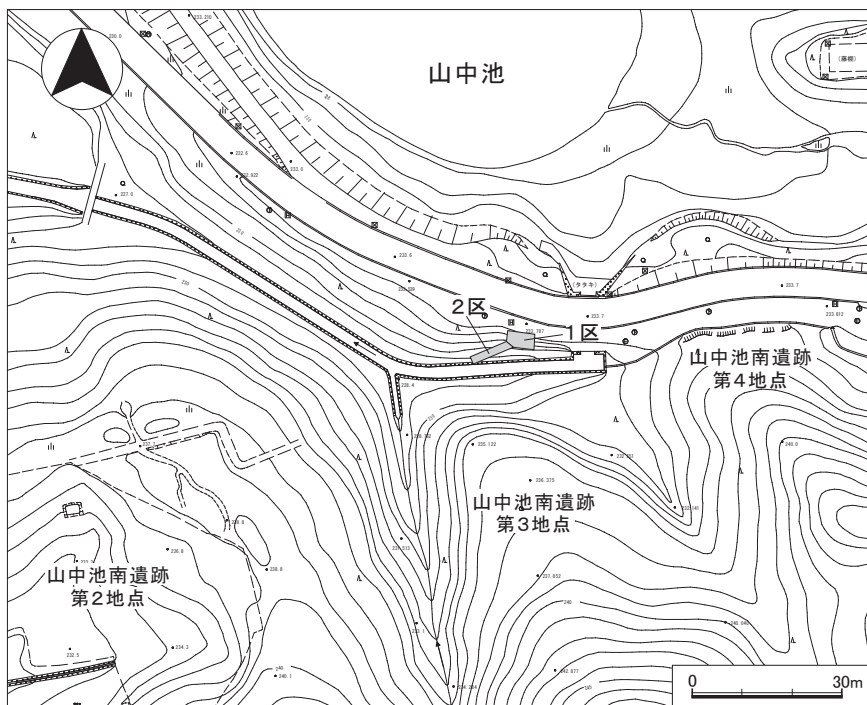


3-4 2区の完掘と西壁土層堆積状況（東より）

写真3（東広島）東大橋周辺整備工事に伴う試掘調査

側南北幅 1.4 m の規模である。東端部で地表下 0.44 m、西端部で地表下 0.28 m まで掘削した（掘り方床面はほぼ水平）。表土層以下は 4 枚に区分され、堆積土は淡い黄褐色系砂質土を主体としていた。最下層は黄灰白色粘質土であり、西条湖成層の可能性はある。遺構、遺物とも確認されなかった。

2区 山中谷川に面する川岸に位置し、東端部は崖状であり、調査区東部から東側は急傾斜となっている。平面梯形で、北側東西幅 0.9 m、南側東西幅 1.0 m、東側南北幅 1.4 m、西側南北幅 1.32 m の規模である。西端部で地表下 0.56 ～ 0.66 m、西部で地表下 0.4 m まで掘削した（掘り方床面はほぼ水平）。堆積層は表土層を含めて 3 枚に区分した。表土層下は、上層は黄色砂質土、下層は黄灰白色砂質土（砂粒がやや粗い）である。調査区の約 2/3（中央部～北側）が以前の工事により掘削されており、工事埋土で充填されていた。調査区東部では護岸のため土嚢が積まれており、自然堆積層が残されているのは全体の 1/3 以下であった。遺構、遺物とも確認されなかった。



第 15 図 (東広島) 山中地区屋外埋設給水管漏水修繕調査区平面図 (縮尺 1 : 1,000)
(1 区・2 区は調査区を示す)

3) 鏡西谷住居跡擬木設置工事

所在地 東広島市鏡山二丁目 341 番

調査期間 2017 (平成 29) 年 2 月 27 日

調査面積 100.0 m²

調査者 石丸恵利子

調査概要 鏡西谷住居跡擬木設置工事に伴って立会調査を行った (第 12 図 3、普及・教育・研究活動報告編を参照)。

4) (東広島) 山中地区屋外埋設給水管漏水修繕

所在地 東広島市鏡山二丁目 812 番 62

調査期間 2017 (平成 29) 年 12 月 7 日

調査面積 12.0 m²

調査者 藤野次史

調査概要 (東広島) 山中地区屋外埋設給水管漏水修繕に伴って立会調査を実施した (第 12 図 4)。給水管漏水に伴う緊急対応である。給水管が地下深くに埋設されており、



4-1 調査区全景（北西より）



4-2 給水管および漏水箇所探索状況（西より）



4-3 給水管応急処置状況（西より）



4-4 排水用溝掘削完了状況（北東より）

写真 4（東広島）山中地区屋外埋設給水管漏水修繕に伴う立会調査

漏水箇所が特定できできないため、地表部に水がしみだしている一帯を掘削して漏水箇所を特定し、修繕工事を行った（第 15 図）。給水管漏水箇所探索のための掘り方は、東西 3.5 m、南北 2.0 m の規模で、深さ約 2 m まで掘削した。漏水が激しく、修繕作業が困難であるため、排水溝を長さ（東西）5 m、幅 1 m、深さ 1 m の規模で掘削し、山中谷川へ排水した。漏水箇所を仮補修し、その後、配管交換を行った。

遺構、遺物とも確認されなかった。

5)（東広島）東大橋東側ウッドチップ舗装整備工事

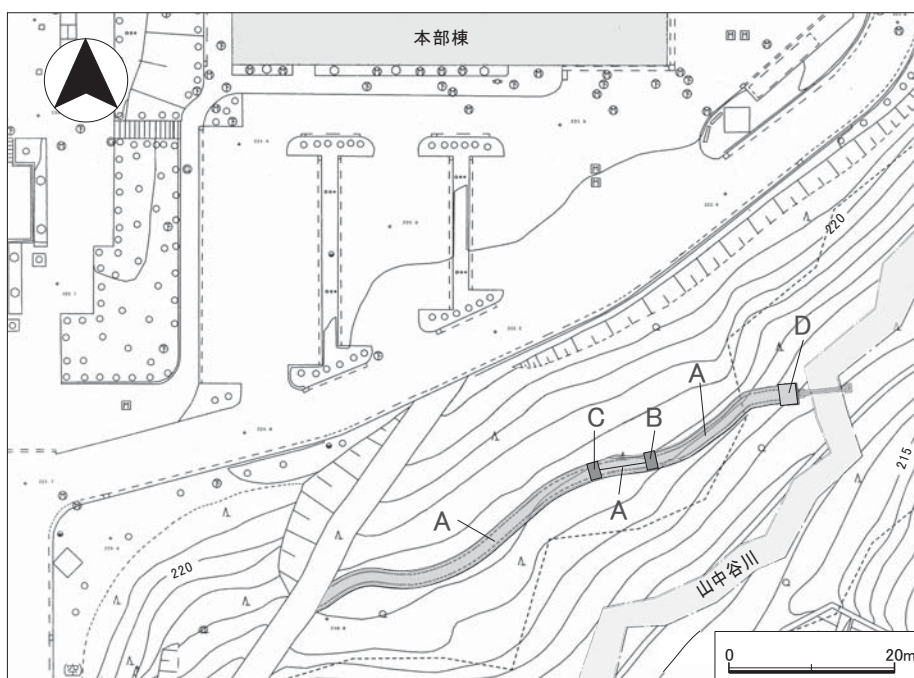
所在地 東広島市鏡山一丁目 3 番 2 号

調査期間 2018（平成 30）年 2 月 19 日

調査面積 122.4 m²

調査者 藤野次史

調査概要 (東広島) 東大橋東側ウッドチップ舗装補修工事に伴って試掘(立会)調査を実施した(第12図5)。ウッドチップ舗装を行うための掘り方(以下、歩道掘り方)のほか、丸木橋に隣接する歩道東端部に階段掘り方、歩道中央部付近に暗渠排水掘り方を2ヶ



第16図 (東広島) 東大橋東側ウッドチップ舗装整備工事調査区平面図(縮尺1:900)
(Aは歩道掘り方、B・Cは暗渠排水掘り方、D階段基礎掘り方である)



5-1 調査前の状況(北東より)



5-2 階段掘り方掘削状況(北より)

写真5 (東広島) 東大橋東側ウッドチップ舗装整備工事に伴う試掘(立会)調査(1)

所掘削した（第16図）。

歩道掘り方は東側から順次掘削した。規模は、幅（南北）約2m、総延長（東西）約60mである（第16図A）。北から南に向かって緩やかに傾斜する地形で、北側で0.15～0.25m、南側で0.05～0.1mの掘削を行った。暗渠排水掘り方は、歩道掘り方の中央部に2ヶ



6-1 歩道掘り方掘削状況（東より）



6-2 階段掘り方完掘状況（北より）



6-3 歩道東部掘り方完掘状況（南東より）



6-4 歩道中央部～西部完掘（東より）



6-5 東側暗渠排水掘り方完掘状況（南より）



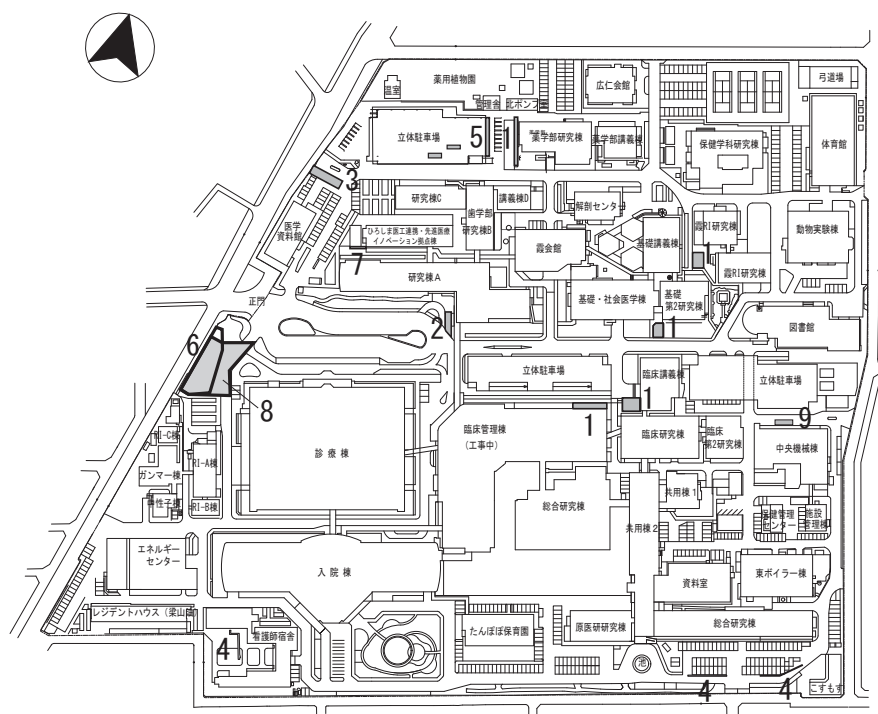
6-6 西側暗渠排水掘り方完掘状況（南より）

写真6（東広島）東大橋東側ウッドチップ舗装整備工事に伴う試掘（立会）調査（2）

所設置した。東側の掘り方（第 16 図 B）は東端から西へ約 7.6 m に位置し、東西 1.2 m、南北約 2.0 m、西側の掘り方（第 16 図 C）は東端から西へ約 14.4 m に位置し、東西 1.3 m、南北約 2.0 m の規模である。いずれも歩道掘り方床面から 0.25 m の深さまで掘削を行った。歩道掘り方および暗渠排水掘り方の堆積層は、上層より、表土層（厚さ約 5cm）、黄褐色砂質土（やや粘性あり、厚さ約 10cm）、黄褐色砂質土（灰色粘土ブロック混じり、厚さ 15～20cm）、黄褐色砂質土（砂粒が粗い、掘削底面より下部の堆積層）である。

階段掘り方は東西 2.0 m、南北 1.7 m の規模で、0.1～0.35 m の掘削をおこなった（第 16 図 D）。ただし、丸木橋台石の西側に接して直径 18cm 程度のマツの根が位置していたため、撤去した。これに伴って、0.6 m×0.6 m の範囲を約 0.6 m まで掘り下げた。階段掘り方部分の堆積層は、上層から、表土（厚さ約 5cm）、黄色砂質土（厚さ約 10cm）、黄褐色～灰褐色砂質土の順であった。

いずれにおいても遺物、遺構とも検出されなかった。



第 17 図 2017 年度震地区の立会・試掘調査位置図（縮尺 1：5,000）

- (1. (震) 臨床研究棟周辺等駐輪場取設工事、2. (震) 研究棟A玄関キャンपी取設工事、3. (震) P1 立体駐車場横ゲート改修、4. (震) 看護師宿舎等舗装改修、5. (震) 研究棟C改修その他工事、6. (病) ロータリーサクラ移植工事、7. (震) 研究棟C改修機械設備工事、8. (病) YHRミュージアム新営工事、9. (震) 臨床第2研究棟1階解剖室等改修工事における外構工事)

霞地区（広島市）

1) (霞) 臨床研究棟周辺等駐輪場取設工事

所在地 広島市南区霞一丁目2番3号

調査期間 2017（平成29）年8月23日・24日・30日

調査面積 約260 m²

調査者 藤野次史

調査概要 (霞) 臨床研究棟周辺等駐輪場取設工事に伴って立会調査を実施した（第17図1）。駐輪場設置場所は5ヶ所（第18図A～E）で、駐輪場C～Eの3ヶ所について立会調査を実施した。駐輪場C（医学部基礎研究棟南側、第18図C）、駐輪場D（RI研究棟西側、第18図D）、駐輪場E（薬学部研究棟西側、第18図E）である。調査区番号は掘削順に1区、2区とした。工事は、駐輪場E、駐輪場C、駐輪場Dの順に掘削したため、駐輪場Eから順次調査区番号を付している（したがって、以下の記述では、駐輪場C、D、Eの順で記述するため、調査区番号が前後している）。

なお、駐輪場A（第18図A）の現状は未舗装の空地で、地表面の土を約0.1 mほど漉き取り、アスファルト舗装するのみの工事であり、立会調査は行わなかった。また、駐輪場B（第18図B）についても、工事予定範囲全域が2015年6月の臨床研究棟改修工事（藤野2018）掘削範囲内および掘削深度内であることから立会調査は実施しなかった。

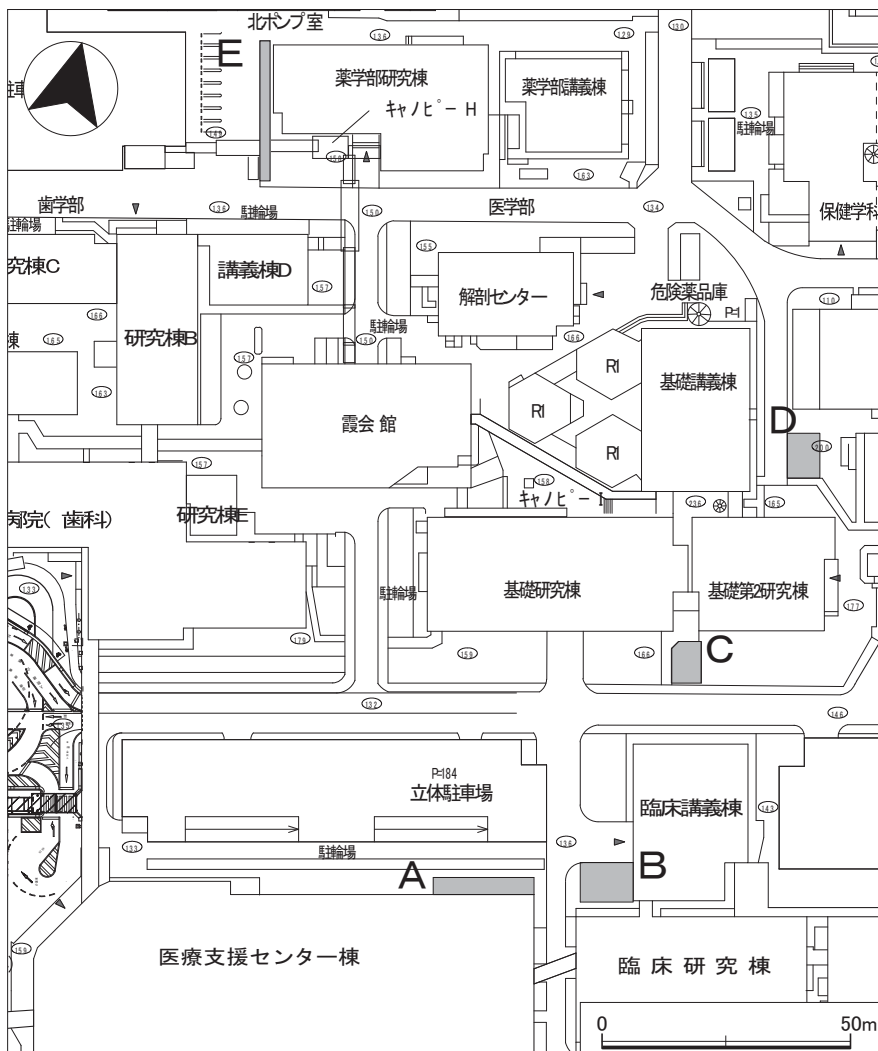
① 駐輪場C（医学部基礎研究棟南側）

駐輪場全体を舗装することから、ほぼ全域の表層土を10～15cm漉き取った。予定していた北端の支柱掘り方の位置で通信用マンホールが露出し、基礎を設置することができないことが判明したため、工事計画を変更し、基礎をすべて東側に約2 mずらすことにした。

屋根支柱基礎は4ヶ所で、北側から順に掘り方の掘削を行い、北側から順次12～15区とした（第19図）。いずれの調査区も堆積層は工事に伴う埋積土と判断された。

12区 東西約2.4 m、南北約2.1 mの規模で、地表下約0.7 mまで掘削した。通信ケーブルの柵と汚水柵に挟まれており、遺構は検出されなかった。

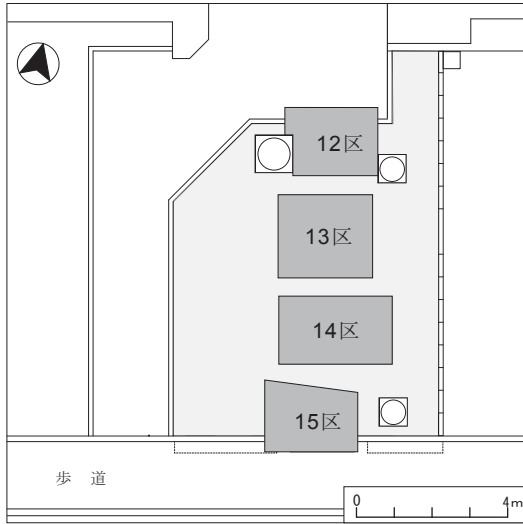
13区 東西約2.5 m、南北約2.15 mの規模で、地表下約0.65 mまで掘削した。調査区中央のやや南側でヒューム管が露出した。直径30 cmで、東西方向に配置されており、医学部研究棟にはほぼ平行している。一部破損して土が詰まっており、現在は利用されていないものと推定された。上面がほぼ掘り底であり、そのまま残すこととした。また、調査区西端部で南北方向に敷設された電気ケーブルが露出した。基礎を設置するにあたり邪魔にはならないことから、そのままとした。



第 18 図 (霞) 臨床研究棟周辺等駐輪場取設工事駐輪場 A～E 位置図 (縮尺 1 : 1,500)
 (図中の A～E が工事予定の駐輪場である)

14 区 東西約 3.0 m、南北約 1.8 m の規模で、地表下約 0.7 m まで掘削した。調査区中央部でガス管、南端部で電気配管が露出した。ガス管は南東－北西方向に配置されており、上面は地表下約 0.6 m に位置していた。電気配管は東西方向に配置されており、地表下約 0.4 m に位置していた。いずれもこのままで基礎を設置することが可能であり、移設等は行わなかった。

15 区 東西約 2.45 m、南北約 1.9 m の規模で、地表下約 0.75 m まで掘削した。配管、遺構共に検出されなかった。



第 19 図 駐輪場C新設工事調査区平面図 (縮尺 1 : 100)

② 駐輪場D (RI研究棟西側)

駐輪場となる敷地全域を地表下 10 ～ 15cm 程度深さで漉き取りを行なった。柱支柱基礎は東西 2 列 (各 4 ヶ所ずつ) で、東列の基礎掘り方を掘削した後、敷地南辺と西辺の土留めを兼ねた石垣を撤去して、西列の基礎掘り方を掘削した。東列の掘り方は、南から 2 番目の基礎掘り方 (16 区)、北端の基礎掘り方 (17 区)、北から 2 番目の基礎掘り方 (18 区)、南端の基礎掘り方 (19 区) の順で掘削した (第 20 図)。西列は、



7-1 駐輪場C表土漉き取り状況 (北より)



7-2 駐輪場C屋根支柱基礎掘り方 (10 区) 掘削状況 (北より)

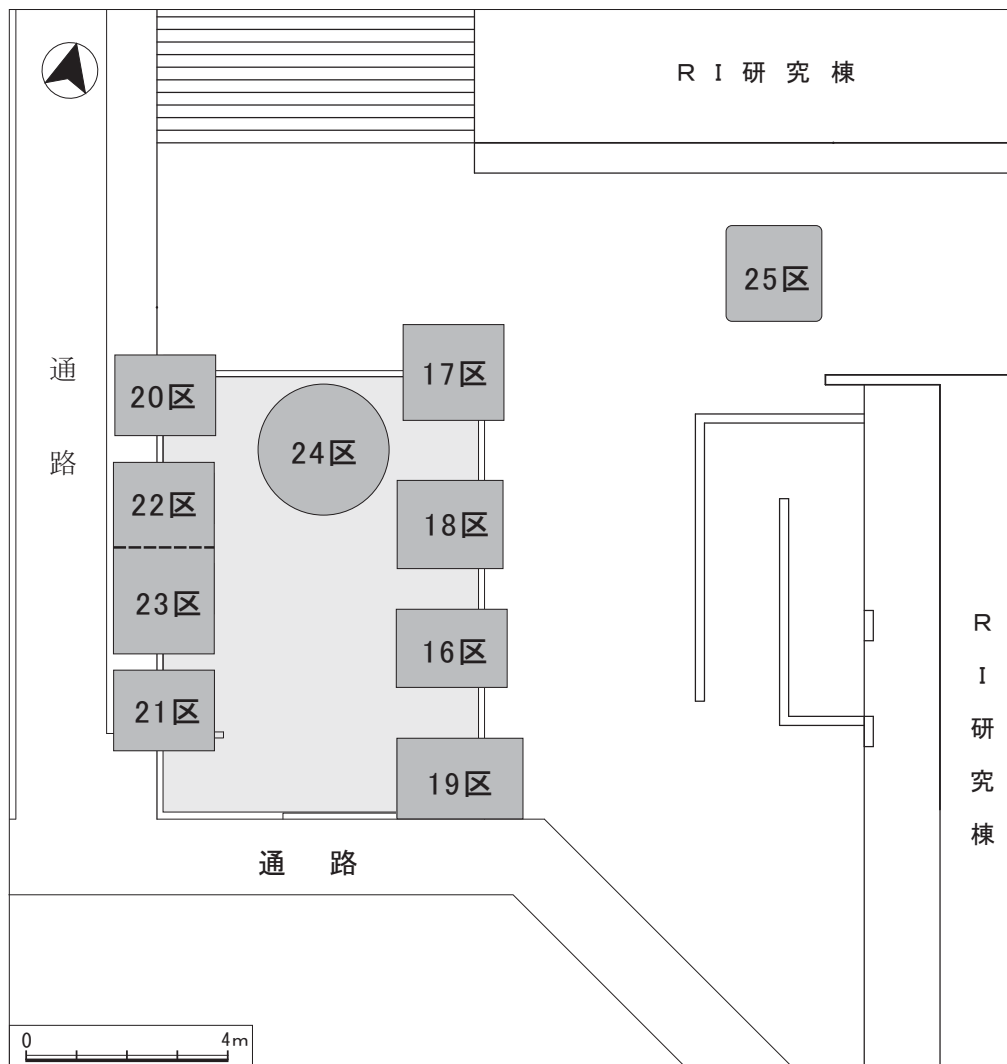


7-3 駐輪場C完掘状況 (南より)



7-4 駐輪場C完掘状況 (北より)

写真 7 (霞) 臨床研究棟周辺等駐輪場取設工事駐輪場 C 新設に伴う立会調査



第 20 図 駐輪場D新設工事調査区平面図（縮尺 1 : 150）

北端の基礎掘り方（20 区）、南端の基礎掘り方（21 区）、南から 2 番目の基礎掘り方（22 区）、北から 2 番目の基礎掘り方（23 区）の順で掘削した。

16 区 東西約 2.2 m、南北約 1.55 m の規模で、地表下 0.7 m まで掘削した。掘り底で橙褐色真砂土が露出した。掘り底より上部の堆積層は分層できず、1 層である。駐輪場予定地は周囲より 30cm 以上高く、堆積層は基本的に盛土と考えられる。

17 区 東西約 2.0 m、南北約 1.9 m の規模で、地表下 0.45 m まで掘削した。堆積層は分層できず、1 層である。

18 区 東西約 2.1 m、南北約 1.75 m の規模で、地表下 0.5 m まで掘削した。堆積層は



8-1 駐輪場D表層土漉き取り状況（南東より）



8-2 駐輪場D屋根支柱基礎掘り方掘（18区）削
状況（南東より）



8-3 駐輪場D・16区完掘状況（東より）



8-4 駐輪場D・18区掘削状況（北より）



8-5 駐輪場D区・16～19区完掘状況（北東より）



8-6 駐輪場D・20～23区完掘状況（南西より）

写真8（震）臨床研究棟周辺等駐輪場取設工事駐輪場D新設に伴う立会調査（1）



9-1 駐輪場D調査区南縁石垣撤去状況（東より）



9-2 駐輪場D高木移設状況（南より）



9-3 駐輪場D・25区（高木移設先掘り方）掘削状況（南東より）



9-4 駐輪場D高木移設先掘り方完掘状況（南より）

写真9（震）臨床研究棟周辺等駐輪場取設工事駐輪場D新設に伴う立会調査（2）

分層できず、1枚である。

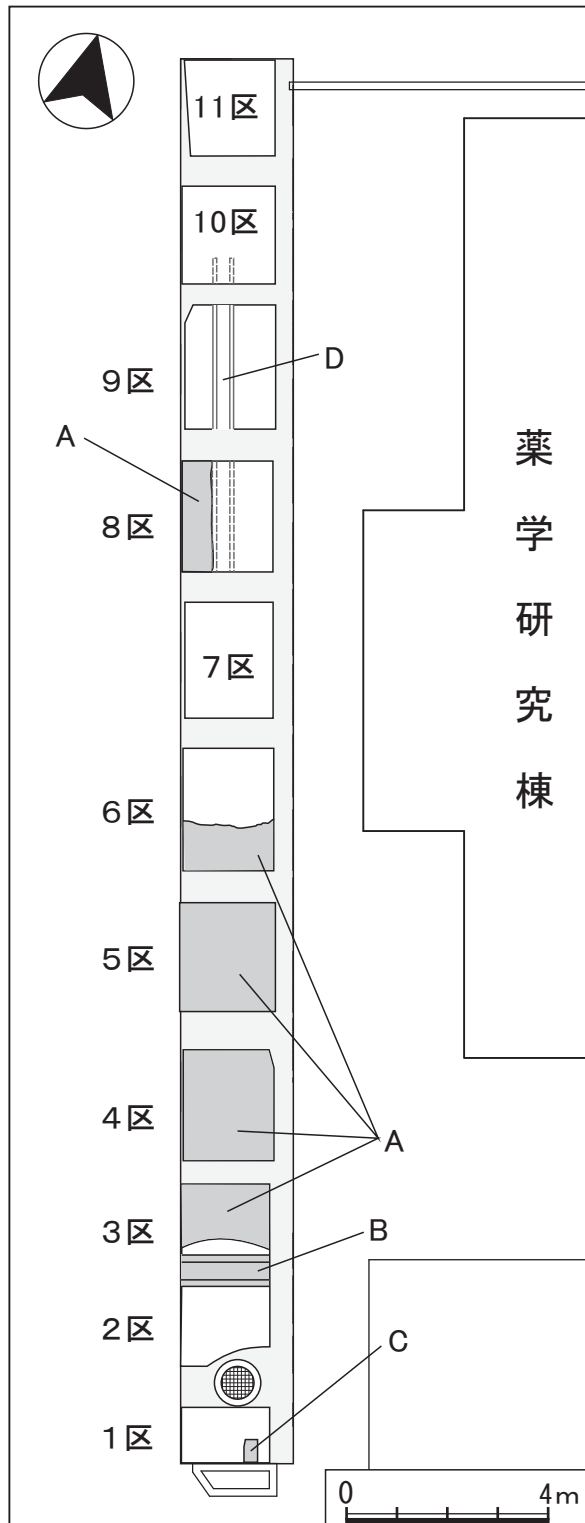
19区 東西約2.5m、南北約1.6mの規模で、地表下0.7mまで掘削した。掘り底で橙褐色真砂土が露出した。いずれも遺物、遺構は検出されなかった。

20区 東西約2.0m、南北約1.6mの規模で、地表下0.7mまで掘削した。

21区 東西約1.35m、南北約2.0mの規模で、地表下0.7mまで掘削した。

22・23区 22・23区は畔を設けず連続して掘削した。東西約2.0m、南北約3.8mの規模で、地表下0.7mまで掘削した。いずれの調査区も堆積層は1枚で盛土と判断され、遺構・遺物は検出されなかった。

支柱基礎掘り方のほか、高木移設に伴って掘削を行った。高木掘り取りのための掘り方を24区、移設先の掘り方を25区とした。



24区 平面が大略円形で、南北約 2.7 m、東西約 2.6 m、深さは最深部で約 0.5 m の規模である。周辺と同様に、堆積層はすべて第二次大戦後の盛土と判断した。

25区 高木の移設先で、24区の約 5 m 東の RI 研究棟西側広場（新設駐輪場 D の東隣）である。掘り方は平面方形で、南北約 1.9 m、東西約 1.9 m、深さ約 0.4 m の規模である。堆積層はすべて第二次大戦後の盛土と判断した。遺物・遺構は検出されなかった。

③ 駐輪場 E（薬学部研究棟西側）

アスファルトの撤去後、屋根柱基礎掘り方の掘削を行った。南端の基礎掘り方から掘削を始め、順次北に向かって基礎掘り方を掘削した。最初の基礎掘り方を 1 区とし、順次調査区番号を付した（第 21 図）。

1区 東西約 1.75 m、南北約 1.2 m 規模で、地表下約 0.5 m まで掘削した。掘り方掘り底付近（地表下約 0.5 m）で花崗岩切石とコンクリート製の構築物を検出した。周囲には

第 21 図 駐輪場 E 新設工事調査区平面図（縮尺 1 : 150）

（A はコンクリート床、B はコンクリート基礎、C はコンクリート構築物、D コンクリート排水路）

他に構築物は確認されなかった（遺構は南側の未調査区に続いている）。構築物の上面は水平で、構築物の部分にのみ黒色土が認められた。西端は直線をなし、側面は平坦な面を形成している。北側、西側は不規則な断面で、本来構築物の続きが存在したものと考えられる。検出面が掘り方の掘り底であることから、そのまま残すことにした。構築物の厚さは15 cm以上あり、下部構造の存在等は確認しなかった。

2区と3区の間が狭いことから、一つながりで掘削した（完掘時に掘り底付近にわずかに境界の畔が残されている状況であった）。

2区 東西約1.6 m、南北約1.6 m規模で、地表下約0.65 mまで掘削した。遺構・遺物とも検出されなかった。

3区 東西約1.6 m、南北約1.8 m規模で、地表下約0.65 mまで掘削した。南端部でコンクリート基礎、その北側でコンクリート床を検出した。西側の立体駐車場建設工事で検出したSX04と同一遺構である。

4区 東西約1.8 m、南北約2.2 m規模で、地表下約0.65 mまで掘削した。調査区全面でコンクリート床を検出した。コンクリート面が掘り底付近であることから現状保存することとした。

5区 東西約1.6 m、南北約2.15 m規模で、地表下約0.65 mまで掘削した。調査区全面でコンクリート床を検出した。コンクリート面が掘り底付近であることから現状保存することとした。

6区 東西約2.45 m、南北約1.8 m規模で、地表下約0.7 mまで掘削した。調査区南側半分でコンクリート床を検出した。北半ではコンクリート床は完全に削平されていた。コンクリート面が掘り底付近であることから現状保存することとした。

7区 東西約1.75 m、南北約2.3 m規模で、地表下約0.7 mまで掘削した。堆積土は工事埋土で、遺構は検出されなかった。

8区 東西約1.8 m、南北約2.2 m規模で、地表下約0.7 mまで掘削した。地表下約0.5 mで南北方向に配置されたコンクリート製側溝を検出した。まず両側の側板を構築し、その後側板の間に底板（側溝床）を構築している。側板断面は底部が約14 cm、上面が10 cmで断面台形状を呈していた。底板は厚さ約4 cmで、下部構造はなく、土の上に直接構築していた。側溝上面は掘り底より約0.2 m高く、ほぼ調査区の真ん中に位置していることから、記録作成後、撤去した。側溝は検出面からすると、第2次大戦後の構築物と考えられ、3～6区で認められたコンクリート面（地表下0.4 m程度）に対応するものとみられる。コンクリート中に骨材として大小の円礫を含んでいることから、昭和20年～30年頃の構築の可能性がある。



10-1 駐輪場E全景（北西より）



10-2 駐輪場E屋根支柱基礎掘り方（7区）掘削状況（北より）



10-3 駐輪場E・1区構造物検出状況（北より）



10-4 駐輪場E・2区コンクリート基礎、コンクリート床検出状況（東より）



10-5 駐輪場E・4区コンクリート床検出状況（南東より）



10-6 駐輪場E・5区コンクリート床検出状況（南東より）

写真 10（霞）臨床研究棟周辺等駐輪場取設工事駐輪場E新設に伴う立会調査（1）



11-1 駐輪場E・6区コンクリート床検出状況(東より)



11-2 駐輪場E・9区コンクリート排水路検出状況(南東より)



11-3 駐輪場E完掘状況(南より)



11-4 駐輪場E完掘状況(北より)

写真 11 (震) 臨床研究棟周辺等駐輪場取設工事駐輪場 E 新設に伴う立会調査 (2)

側溝撤去後、掘り底面付近でコンクリート床を検出した。コンクリート床は西半部のみが残存しており、東側は削平されていた。コンクリート床上面が掘り底付近であるため現状保存することとした。

9区 東西約 1.8 m、南北約 2.2 m規模で、地表下約 0.5 mまで掘削した。8区で検出した側溝が続くとともに、中央部に電気配管(3本)が露出したため、側溝上面で掘削を終了し、側溝はそのまま残すこととした。

10区 東西約 1.85 m、南北約 1.95 m規模で、地表下約 0.7 mまで掘削した。堆積層はすべて工事埋土で、遺構は検出されなかった。

11区 東西約 1.9 m、南北約 1.8 m規模で、地表下約 0.7 mまで掘削した。堆積層はすべて工事埋土で、遺構は検出されなかった。

2) (震) 研究棟A玄関キャンピ取設工事

所在地 広島市南区霞一丁目2番3号

調査期間 2017(平成29)年10月19日・20日

調査面積 約20㎡

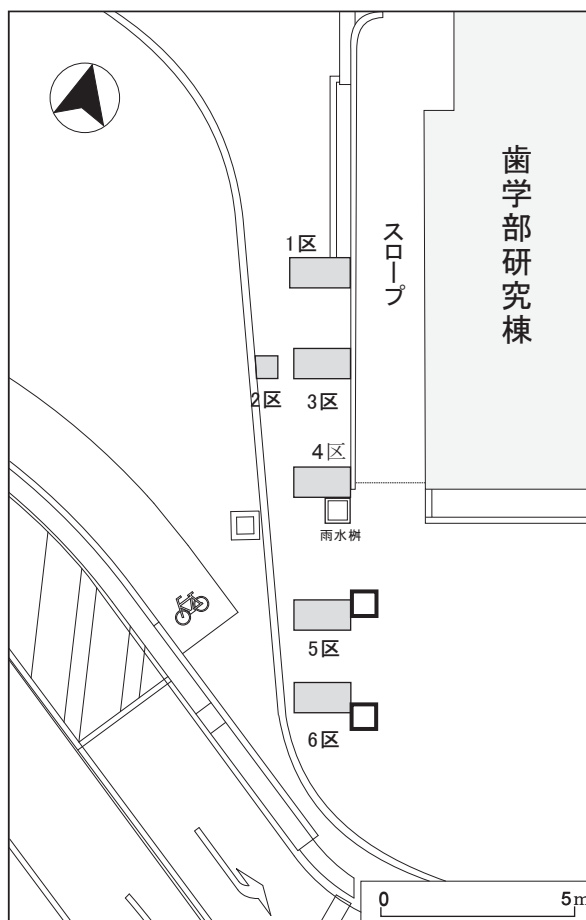
調査者 藤野次史

調査概要 (震) 研究棟A玄関キャンピ取設工事に伴って立会調査を実施した(第17図2)。キャンピ屋根支柱は5本で、支柱基礎掘り方について掘削を行った。また、基礎支柱に隣接してサイン基礎掘り方1基を掘削した。掘削順に1～6区とした(第22図1～6区、1・3～6区は支柱基礎掘り方、2区はサイン基礎掘り方)。

1区 北端部の基礎掘り方で、平面は東西1.6m、南北0.8mの規模で、0.7mまで掘削した(写真12-3)。すべて工事埋積土で、東端部のスロープ基礎は削岩機で撤去した。調査区西端部で東側に傾斜する掘り方が確認され、掘り方上面は地表下約0.5mに位置していた。埋土は淡黄褐色砂質土で非常によく締まっている。兵器支廠造成土の可能性もあるが、現状では判断できなかった。

2区 サイン基礎掘り方で、1区南西に位置する。平面は東西0.6m、南北0.6mの規模で、深さ0.6mまで掘削した。すべて工事埋積土であった。

3区 1区の南側に位置し、2区が西側に隣接する。平面は、東西1.5m、南北0.8mの規模で、深さ0.9mまで掘削した(写真12-4)。東端部のスロープ基礎を削岩機で撤去した。堆積層はすべて工事埋積土で、歯学部研究棟の掘り方内と



第22図 (震) 研究棟A玄関キャンピ取設工事調査区平面図(縮尺1:200)(1～6区が調査区である)



12-1 調査区全景（南より）



12-2 支柱掘り方（1区）掘削状況（北より）



12-3 1区完掘状況（北より）



12-4 3区完掘状況（北より）



12-5 4区完掘状況（南より）



12-6 6区完掘状況（北より）

写真 12（霞）研究棟A玄関キャンピアー取設工事に伴う立会調査

推定される。

4区 3区の南に位置し、平面は東西1.5m、南北0.6mの規模で、深さ0.85mまで掘削した(写真12-5)。堆積層はすべて工事埋土で、東側のスロープの基礎下面以下は歯学部研究棟掘り方の埋積土と考えられる。東端部のスロープ基礎を削岩機で撤去した。

5区・6区 5区は4区の南に、6区は5区の南に位置し、歯学部研究棟と総合研究棟をつなぐ2階渡り廊下支柱が東側に隣接する。両区とも、平面は、東西1.5m、南北0.6mの規模で、深さ0.85mまで掘削した(写真12-6)。タイルブロックに関連する土層以外はすべて渡り廊下支柱基礎掘り方の埋積土である。

3) (震) P1 立体駐車場横ゲート改修

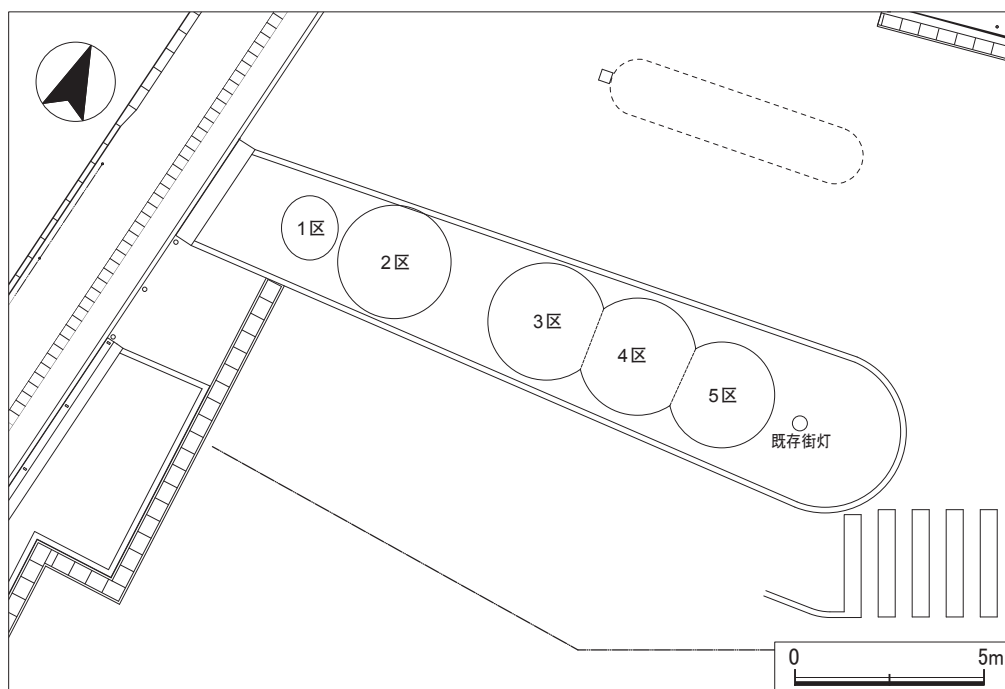
所在地 広島市南区霞一丁目2番3号

調査期間 2017(平成29)年12月14日

調査面積 約500m²

調査者 藤野次史

調査概要 (震) P1 立体駐車場横ゲート改修に伴って立会調査を実施した(第17図3)。ゲート改修に伴って高木5本を移設した。西から順に1～5区とし、順次掘削・移設した(第



第23図 (震) P1 立体駐車場横ゲート改修に伴う高木移設工事調査区平面図(縮尺1:200)
(1～6区が調査区である)



13-1 調査区全景（南より）



13-2 1区掘削状況（北東より）



13-3 1区完掘状況（西より）



13-4 3区完掘状況（南東より）



13-5 5区高木移設状況と1～4区完掘状況(西より)



13-6 4区完掘状況（南西より）

写真 13 （震）PI 立体駐車場横ゲート改修に伴う立会調査

23 図)。1 区は手掘りで、2～5 区はバックホウで掘削した。

1 区 最も西側に位置し、大学敷地西側の道路に隣接する。平面楕円形の掘り方で、東西 1.5 m、南北 1.7 m の規模で、0.4 m まで掘削した。堆積土は暗褐色系砂質土である。0.4 m 以下はきわめて固く、植栽の根も横ばい状態であった（写真 13-3）。

2 区 1 区の 0.15 m 東に位置する。平面円形の掘り方で、東西約 3.1 m、南北約 3.0 m の規模で、深さ 0.4 m まで掘削した。堆積土は暗褐色系砂質土である。0.4 m 以下はきわめて固く、植栽の根も横ばい状態であった。

3～5 区は連続的に掘削し、掘り方の境界は不明確である。

3 区 2 区の約 1.5 m 東に位置する。大略平面円形の掘り方で、掘り方の東側は 4 区との境界で、直線的である。東西約 2.3 m、南北約 3.1 m の規模で、深さ約 0.25 m まで掘削した。堆積土は暗褐色系砂質土である（写真 13-4）。

4 区 3 区の東に隣接して位置する。平面小判形の掘り方で、掘り方の東西側は 3 区、5 区との境界で直線的である。東西約 2.3 m、南北約 3.1 m の規模で、深さ約 0.4 m まで掘削した。堆積土は暗褐色系砂質土である（写真 13-6）。

5 区 4 区の東に隣接して位置する。平面大略楕円形の掘り方で、掘り方の西側は 4 区との境界で直線的である。東西約 2.7 m、南北約 2.8 m の規模で、深さ約 0.4 m まで掘削した。堆積土は暗褐色系砂質土である。

遺物・遺構は検出されなかった。

4) (霞) 看護師宿舎等舗装改修

所在地 広島市南区霞一丁目 2 番 3 号

調査期間 2017 (平成 29) 年 12 月 15 日、平成 30 年 1 月 19 日・25 日

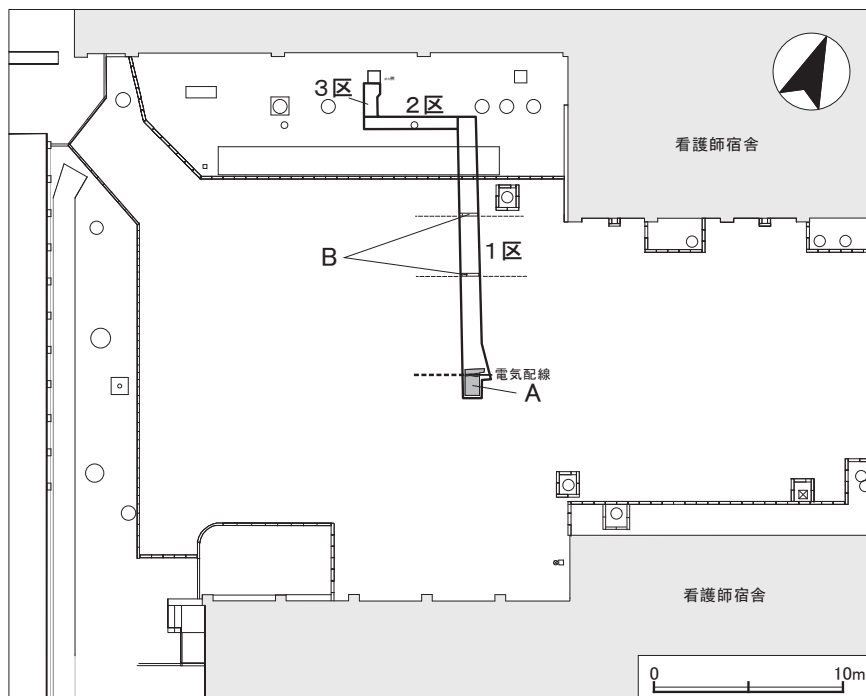
調査面積 約 2,200 m²

調査者 藤野次史

調査概要 (霞) 看護師宿舎等舗装改修に伴って立会調査を実施した。工事対象は、看護師宿舎中庭 (看護師宿舎地区) と総合研究南側の学内連絡通路 (総合研究棟南地区) の 2ヶ所である (第 17 図 4)。看護師宿舎地区の工事は雨水排水溝・柵の設置と舗装、総合研究棟南地区の工事は再舗装と雨水排水溝・柵の設置である。いずれも排水溝設置工事に伴って調査を行った。

① 看護師宿舎地区

排水溝は中庭中央部の雨水柵から北へ直線的に延び、北側の看護師宿舎手前で一旦西へ屈曲した後、ふたたび北へ屈曲して既設の雨水柵に接続するルートである。中庭中央



第 24 図 看護師宿舎地区調査区平面図（縮尺 1 : 400）

（A はコンクリート床、B はコンクリート縁石である）

部の雨水枡掘り方およびその北の排水溝掘り方を 1 区、1 区北端から西へ屈曲した東西排水溝掘り方を 2 区、2 区西端から既設の雨水枡までの排水溝掘り方を 3 区として調査を行った（第 24 図）。

1 区 雨水枡掘り方は東西 1.0 m、南北 1.0 m、深さ約 0.6 m、排水溝掘り方は長さ（南北）13.9 m、幅（東西）0.7 m、深さ 0.6 ～ 0.7 m の規模で掘削した。また、雨水枡掘り方北側で露出した電気配線が現在利用されている否か確認するため、雨水枡掘り方の北側隣接部について、平面台形状（南辺 1.5 m、北辺 0.7 m、東辺・西辺 0.9 m の規模で掘削した。

雨水枡掘り方および北側隣接部でコンクリート床を検出した（写真 14-3）。検出面は地表下約 0.5 m で、調査区内で確認できた規模は、南北約 1.4 m、東西約 1 m である。南側および西側は調査区外に広がっている。コンクリート北辺は直線で、看護師宿舎の東西棟主軸とほぼ平行している。北端は垂直で、平滑な面に仕上げしており、厚さは約 20cm である。コンクリート床北端部の東側隣接部には、東西方向に煉瓦壁（3 列 2 段積み）が構築され、表面はモルタル仕上げとしている（写真 14-4）。煉瓦は幅 10 ～ 12cm で、厚さは



14-1 調査区全景（東より）



14-2 1区掘削状況（南より）



14-3 1区コンクリート床検出状況（北より）



14-4 1区コンクリート床、煉瓦組遺構構築状況（北より）



14-5 1区北部コンクリート構築物検出状況（北西より）



14-6 1区完掘状況（北より）

写真 14（霞）看護師宿舎等舗装改修（看護師宿舎地区）に伴う立会調査（1）



15-1 2区完掘状況（東より）



15-2 3区完掘状況（南より）

写真 15（霞）看護師宿舎等舗装改修（看護師宿舎地区）に伴う立会調査（2）

約 12cm である。煉瓦積東端部付近は削平されており、調査区内では東側への広がり確認できなかった。本遺構については、床面上に雨水桝を据えることとなり、コンクリート床は現状保存することとなった。

コンクリート床直上には暗灰褐色砂質土が 5cm 程度堆積し、その上部に真砂土層が厚く堆積している。出土遺物がないことから明確な時期は不明であるが、霞地区は 1960 年代後半を中心に広い範囲に盛土を行っており、この真砂土層がこれに対応するとすれば、本遺構はそれ以前に位置づけられる。調査地区一帯には広島大学附属攻学寮が 1957 ～ 1965（昭和 32 ～ 40）年まで存在した。また、1945 年以前は広島陸軍兵器補給廠（支廠）の敷地である。いずれかに関連する遺構と推定される。現状では、判断できないが、コンクリートの厚さや構造からすると、前者の可能性はある。

このほか調査区中央部～北部で東西方向に配置した縁石を 2ヶ所で検出した（第 14 図 1区 B、写真 14-5）。縁石の上面は地表下約 10cm であり、工事前の図面との対比から花壇の区画と判断された。

2区 幅（南北）約 0.6 m、長さ（東西）約 5 m、深さ 0.6 m の規模である。堆積層は、上部約 10cm が表土層（暗褐色砂質土）で、表土以下は基本的にすべて真砂土であった（写真 15-1）。また、西端部付近では下底部付近に暗灰色砂質土（瓦片混り）が認められた。

3区 長さ（南北）1.6 m、幅（東西）0.8 ～ 1.3 m、深さ約 0.5 ～ 0.6 m の規模である。北端から南 1.2 m は既設雨水桝および配管掘り方の埋土で、南端部の南北約 0.4 m の範囲にそれ以外の堆積層が認められた（写真 15-2）。南端部の堆積状態は 2区と同様である。

② 総合研究棟南地区

南門の西側の東西掘り方（雨水桝、排水溝）を1区、南門東側の北東－南西掘り方（雨水桝、排水溝）を2区、2区西に隣接する東西掘り方（雨水桝、排水溝）を3区とした（第25図）。

1区 東西 30.5 m、南北m約 1.4 mの規模で、深さ 0.58 ～ 0.65 mまで掘削した。基本層序は、以下の通りである。

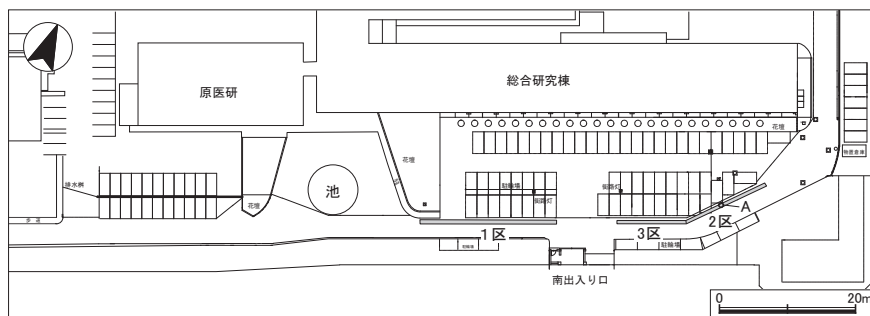
第1層 アスファルト舗装（西端部はアンツーカー） 7 ～ 8cm

第2層 碎石層 20 ～ 30cm

第3層 黄褐色砂質土 10 ～ 20cm（15cm 前後）

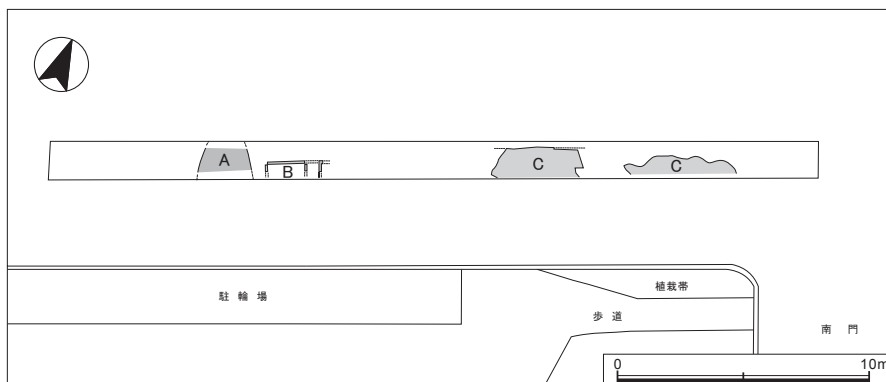
第4層 褐色～暗褐色砂質土 5 ～ 20cm（15cm 前後、下底未掘）

調査区西端から約 6 m東で病院食器を主体とする廃棄土坑（地表下約 50cm）、調査区



第 25 図 総合研究棟南地区調査区平面図（縮尺 1 : 600）

（1 ～ 3 区は調査区、A はコンクリート構築物である）



第 26 図 総合研究棟南地区1区検出遺構平面図（縮尺 1 : 300）

（A は大学病院食器廃棄土坑、B はコンクリート構築物、C はコンクリート床である）

西端から約 8.4 m 東でコンクリート構築物、調査区西端から約 17.4 m 東でコンクリート床を検出した（第 26 図）。

大学病院食器を主体とする廃棄土坑は、掘り込み面がやや不明瞭であるが、舗装碎石層直下から掘りこまれていると判断される。平面楕円形の形状を呈すると推定され、調査区の北側および南側に広がっている（写真 16-5）。現状で、東西 2.2 m、南北約 0.9 m、深さ約 0.3 m の規模である。病院食器は掘り込み端付近では掘り込みあたりから認められたが、出土レベルが中央部に向かって低くなっていた。食器類包含層の途中までしか掘削していないため詳細は不明であるが、すり鉢状の堆積をしているものと考えられる。

コンクリート構築物は、大学病院食器を主体とする廃棄土坑の東側に近接して位置しており、東西方向に配置された壁面とそれに直交する仕切り状の壁面および床で構成される（写真 16-3・4）。東西方向のコンクリート壁面は、幅（東西）1.63 m、高さ 0.65 m、厚さ約 0.13 m の規模である。両端および上面は破砕面で、もともと残りの良い部分は地表下約 0.3 m に位置する。東西壁面の南面に接して南北壁が 3 ヶ所に設置されていた。南北壁はコンクリート遺構撤去途中で検出されたため、東西壁との接合状態を確認していないが、床面の痕跡や実測の結果から東西壁、南北壁が接合し、小区画を形成していたと判断される。南北壁は調査区の南側に連続しており（写真 16-4）、現状で、長さ（南北）0.3 m、厚さ約 0.1 m の規模である。南北壁の間隔は、東から 57cm、151cm で 3 区画以上が存在したと考えられる。床面の厚さは部分的にしか撤去できなかつたため、詳細は不明で、厚さ 10cm 程度と思われる。東西壁の南面および南北壁両面はモルタル仕上げであり、浄化槽と想定される。壁面には大型の円礫を多数含んでおり、兵器補給廠（支廠）関連の遺構の可能性がある。南側壁面中央部（東端から西へ約 0.7 m）に接して 6cm 角の杭が認められた。用途は不明である。東西壁の北面には型枠の痕跡が残されていた。床面以下は撤去しなかつたため、遺構の基礎構造は不明である。

コンクリート床は中央部の床面空白部を含めて東西約 9.7 m の範囲で検出した。西半部はほぼ調査区全体に広がっており、東西約 3.6 m、南北約 1.1m の規模である（写真 16-6）。東半部は北側が大きく削平されており、東西 4.3 m の規模で、南北は残りの良い部分で約 0.6 m である。コンクリートの厚さは約 15cm である（写真 17-2・3）。西端部ではコンクリート層の下に円礫層（丸栗）、角栗層が認められ（写真 17-1）、兵器補給廠（支廠）のコンクリート床や道路遺構と共通した構造と思われたが、西端部以外は、コンクリート床の下層は真砂土層（兵器支廠造成土）のみで、下部構造は認められなかつた。所々に長さ 20 ～ 30cm の角礫が認められたが、ほとんど単独であり、特に意図的に配置されたもので



16-1 調査区全景（東より）



16-2 1区掘削状況（西より）



16-3 1区コンクリート構築物検出状況（北より）



16-4 1区コンクリート構築物撤去状況（北より）



16-5 1区西部病院食器出土状況（北西より）



16-6 1区コンクリート床（西半部）検出状況（北西より）

写真 16（震）看護師宿舍等舗装改修（総合研究棟南地区）に伴う立会調査（1）



17-1 1区コンクリート床西端部構築状況（北西より）



17-2 1区コンクリート床（東半部）検出状況（北西より）



17-3 1区コンクリート床撤去状況（北東より）



17-4 1区コンクリート床（西半部）断面（北より）



17-5 2区完掘状況（東より）



17-6 2区コンクリート構築物検出状況（南東より）

写真 17（震）看護師宿舎等舗装改修（総合研究棟南地区）に伴う立会調査（2）



18-1 3区堆積状況（南西より）



18-2 3区完掘状況（東より）

写真 18（震）看護師宿舎等舗装改修（総合研究棟南地区）に伴う立会調査（3）

はないと判断される。検出したコンクリート床の西側でも、舗装基礎下面付近まで兵器支廠造成土が残されていることからすると、円礫層（丸栗）、角栗層はコンクリート床西端部付近に限られる可能性がある。コンクリート床には大型の円礫が多数含まれており、兵器補給廠（支廠）に関連する遺構と推定される。調査区付近は兵器補給廠第 15 兵器庫が位置していた場所にあたり、関連遺構の可能性はある。

2 区 東西約 19.8 m、南北約 1.4 m の規模で、約 0.6 m の深さまで掘削した。ほぼ全面にわたって大学病院移転後の工事埋積土が堆積していた（写真 17-5）。

調査区中央部でコンクリート構築物を検出した（写真 17-6）。遺構の大半は調査区の北側に位置していると考えらる。検出面は掘り底近くで、地表下約 0.5 m に位置する。全体の形状は不明であるが、1 区のコンクリート床の東西方向とほぼ平行するように配置されているものと推定される。遺構の南東隅を検出したものと推定され、現状で、東西約 35cm、南北約 35cm の規模で、厚さ 6cm 以上である。平坦なコンクリート面上にさらにコンクリートの構築物を構築しているが、大きく削平されており、形状等は不明である。

3 区 東西約 15.7 m、南北約 1.4 m の規模で、0.6 ～ 0.65 m の深さまで掘削した。大半が大学病院移転後の工事埋積土で、調査区北端から南側約 20cm 付近まで大学病院移転前の堆積層が残されていた（写真 18-1）。3 区北壁では真砂土層が比較的良好的に残されていた。アスファルト舗装以下の堆積層は以下の通りである。

第 1 層 アスファルト舗装 7cm

第 2 層 アスファルト碎石層 8 ～ 14cm

第 3 層 青灰色砂質土層（複数枚に細分可能）5 ～ 15cm

第4層 暗褐色砂質土（焼土、木炭粒などを含む）8～12cm

第5層 木炭層（調査区西半部の一部のみ）0.5～1cm

第6層 橙褐色から褐色砂質土（真砂土）5～20cm（10cm程度）

第7層 黄褐色～黄白色砂質土（真砂土）10～25cm

第4層は焼土、木炭粒を多く含む。一帯が焼却場として利用されていたことを推定させ、3区北壁に焼却を行ったと思われる穴が認められた。時期は不明である。時期のわかる遺物はなかったが、土の締まり具合からすると第二次世界大戦後の可能性がある。第6・7層が真砂土層である。兵器支廠造成土と推定される。第7層下面是未確認で、堆積層は下層に連続している。

5) (霞) 研究棟C改修その他工事

所在地 広島市南区霞一丁目2番3号

調査期間 2018（平成30）年2月1日・2日

調査面積 約30㎡

調査者 藤野次史

調査概要 (霞) 研究棟C改修その他工事に伴って立会調査を実施した（第17図5）。調査区の南部と北部でコンクリート床を検出した（第27図）。調査区南部のコンクリート床（コンクリート床1）は東半部を中心に残されており、南北約5.3mの規模である。全体の約2/3（南側～中央部）はほぼつながりの状態であったが、北側は破損が進んでいた（写真19-2）。隣接の通路屋根を設置する際に撤去したため、南端で途切れている。南端から北側約1mの間はほぼ調査区幅いっぱいコンクリート床が残されていたが、その北側は大きく削平されており、北に向かって次第に先細りの状態であった。南端から約3m北でコンクリート床が一旦途切れ、わずかに間が空いて北側の床へと続いていた。北側のコンクリート床は大きく4つに破損しており、レベル的にも南側のコンクリート床よりやや低く、上面は西に向かって傾斜していた。

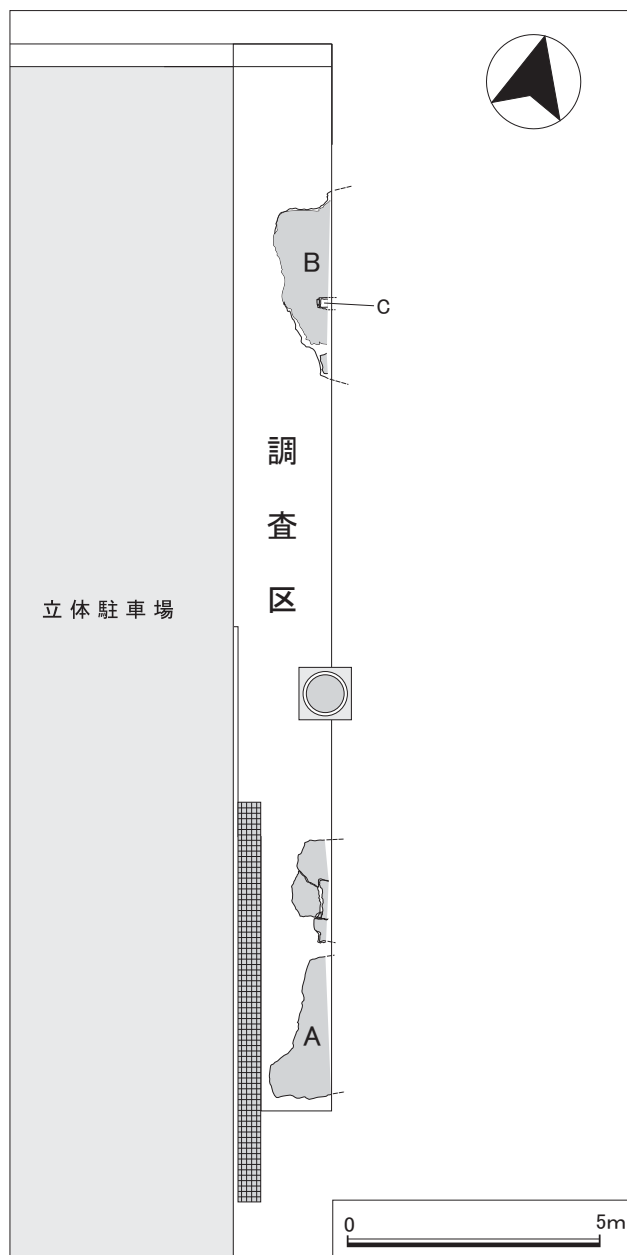
コンクリートの厚さは20cm前後（写真19-3）で、割栗石を敷き詰めた上に円礫層（丸栗石）を形成し、コンクリートを流し込んで床面を形成している。円礫層はほぼコンクリート床に取り込まれていた。円礫は大小あり、長さ5cm前後の大型品を多数含んでいた。掘削深度は約0.8m、角栗石上面付近までで、コンクリート床の下底部が掘り底より低い部分もあった。

調査区北部のコンクリート床（コンクリート床2）は調査区東半を中心に残存しており、南北約4m、東西約1mの規模である（写真19-4）。床面北端は調査区北端から約3m南に位置する。検出部分は平面台形状で、南側は先細りの形状である。床中央付近の調査

区東壁に接して煉瓦・コンクリート構築物を検出した（第 27 図 C、写真 19-5）。東西方向に棒状のコンクリート設置し、その西側に煉瓦長辺を東西方向を向けて配置している。検出したのは東西約 20cm 分であり、規模の詳細は不明である。コンクリートの厚さは北半部が厚さ約 20cm で、南半部は南側に向かって徐々に薄くなっており、南端部では 10cm 以下であった（写真 19-6）。掘削深度は約 0.9 m で、掘削は角栗石上部までであったが、コンクリート床撤去の際に角栗石がなかり一緒に除去された。角栗石はかなり大型で、長さ 20 ～ 30cm のものが多数認められた。

北部と南部のコンクリート床の間約 9 m についてはコンクリート床が残されていなかった。上記のコンクリート床の欠落は、立体駐車場建設の際に建物根切り（掘り方）の東壁が大きく崩落し、コンクリート床も広範囲に崩落したことが主な要因と推定される。

コンクリート床の直上に橙褐色粘質土が堆積しており、上部に土管が埋設されていた。この層は震地区において昭和 50 年前後に広範に行われたと推定される盛土の下層に位置する。



第 27 図（震）研究棟 C 改修その他工事調査区平面図（縮尺 1 : 150）
（A はコンクリート床 1、B はコンクリート床 2、C は煉瓦・コンクリート構築物である）



19-1 調査区全景（北より）



19-2 コンクリート床1検出状況（南より）



19-3 コンクリート床1撤去状況とコンクリート床断面
（南西より）



19-4 コンクリート床2検出状況（北より）

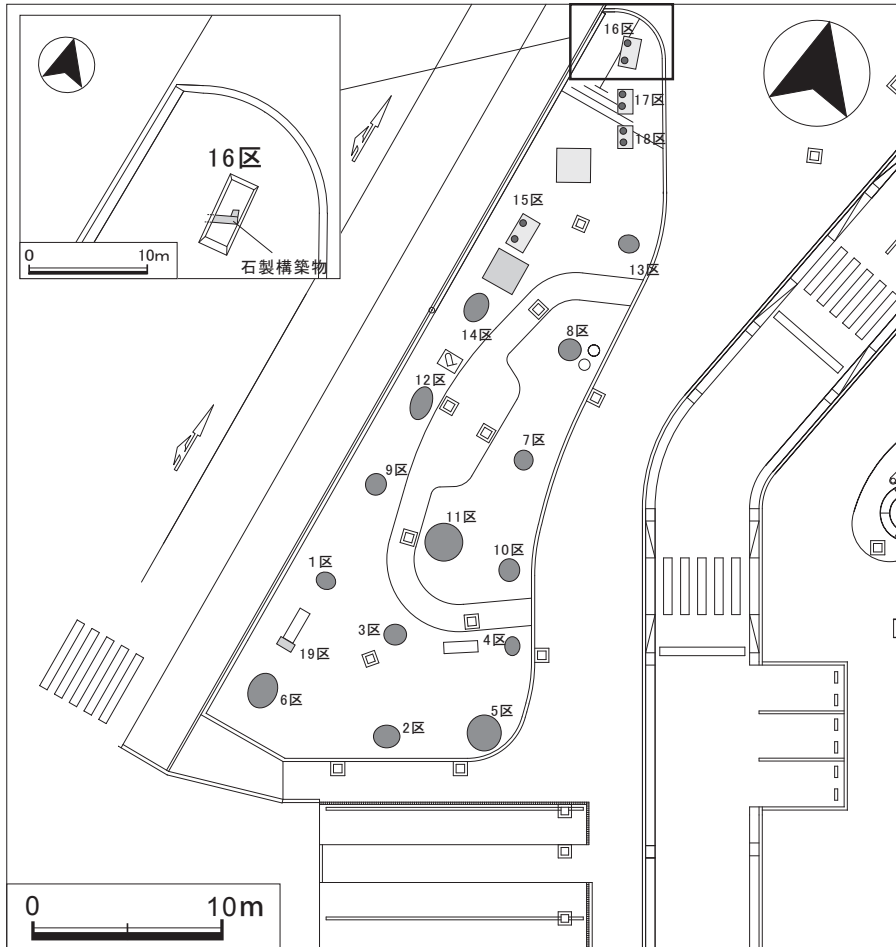


19-5 コンクリート床2中央部煉瓦コンクリート構築物
（西より）



19-6 コンクリート床2撤去状況とコンクリート床断面
（南より）

写真 19（震） 研究棟 C 改修その他工事に伴う立会調査



第 28 図 (病) ロータリーサクラ移植工事調査区平面図 (縮尺 1 : 400)

6) (病) ロータリーサクラ移植工事

所在地 広島市南区霞一丁目 2 番 3 号

調査期間 2018 (平成 30) 年 3 月 1 日

調査面積 約 550 m²

調査者 藤野次史

調査概要 ロータリーサクラ移植工事に伴って立会調査を実施した (第 17 図 6)。移植するサクラは 14 本で、移植のための掘り方を掘削順に 1 ~ 14 区とした (第 28 図 1 ~ 14 区、掘削規模は第 1 表を参照)。大半の調査区は地表下約 0.3 m で硬化剤混りの固結した層 (礫混り) が露出し、サクラの根が硬化面から下へ伸びていないことから、硬化面上面で掘削を終了した。掘削深度は 6 区、7 区が深さ 0.4 m のほかは深さ 0.3 m 前後である。硬化面より



20-1 調査区全景（南より）



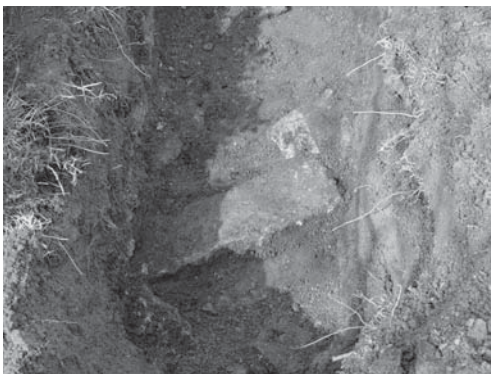
20-2 5区調査状況（南東より）



20-3 8区完掘状況（南より）



20-4 11区完掘状況（南より）



20-5 16区石製構築物検出状況（南より）



20-6 18区完掘状況（北より）

写真 20（病）ロータリーサクラ移植工事に伴う立会調査

第6表 (病) ロータリーサクラ移植工事調査区一覧表

調査区名	平面形	東西	南北	深さ	備 考
1区	楕円形	0.9 m	1.0 m	0.3 m	
2区	楕円形	1.4 m	1.2 m	0.3 m	
3区	楕円形	1.2 m	1.1 m	0.3 m	
4区	楕円形	0.8 m	1.0 m	0.25 m	
5区	円形	1.8 m	1.9 m	0.3 m	
6区	楕円形	1.5 m	1.9 m	0.4 m	
7区	円形	1.0 m	1.05 m	0.4 m	
8区	円形	1.2 m	1.15 m	0.3 m	
9区	円形	1.1 m	1.15 m	0.35 m	
10区	楕円形	1.1 m	1.2 m	0.3 m	
11区	円形	2.0 m	2.0 m	0.3 m	
12区	楕円形	1.1 m	1.8 m	0.35 m	
13区	楕円形	1.1 m	0.95 m	0.3 m	
14区	楕円形	1.2 m	1.6 m	0.3 m	
15区	長方形	1.1 m	1.8 m	0.4 m	支柱部分は0.7 m
16区	長方形	0.95 m	1.6 m	0.3 m	支柱部分は0.7 m
17区	長方形	0.6 m	1.3 m	0.3 m	支柱部分は0.6～0.7 m
18区	長方形	0.8 m	1.2 m	0.3 m	支柱部分は0.6～0.7 m
19区	長方形	0.8 m	0.45 m	0.3 m	

上層はサクラの庭造成の際に行った盛土で、暗褐色系砂質土である(写真20-3・4)。

移動したサクラのうち4本を敷地の北側に仮移植し、掘り方を掘削順に15～18区とした。掘り方は平面長方形である(第28図15～18区、規模は第1表参照)。深さ0.3～0.4mで、2本の支柱部分は直径約0.2m、深さ0.6～0.7mの掘削を行った。15～18区のうち、敷地北端部の16区で石製構築物を検出した(第20図囲み枠部、写真20-5)。盛土と思われる橙褐色砂質土(真砂土)直下に位置しており、地表下約0.35mに位置する。上面を検出したのみで、遺構上面以下に掘削が及ばなかったことから、下層の調査は実施しなかった。平面は東西に細長い長方形の切石で、現状で幅17cm、長さ48cmの規模である。黒褐色砂質土(粘性あり)の中に埋設されていた。遺構の西側は調査区外に続いており、東側は調査区端が切石の東端であった。切石東端の北側に隣接して長さ15cmの角礫が設置されていた。その他、角礫が切石の北側および南側に数点認められたが、裏込めと言えるような状況ではなかった。西側および東側に続きの石組が存在するかは不明である。縁石や石垣状の施設などが想定可能であるが、下層の調査を行っていないので、詳細不明である。西側隣接地の2013年度調査区で石垣状遺構を検出しており(藤野2016a)、関連する遺構と推定される。なお、支柱掘り方は切石に影響がないように掘削した。また、ベンチの基礎の深さを確認するために掘り方部分の掘削を行った(19区)。深さ約0.3m

で基礎下底を確認した。

サクラの庭内に移設できなかった 10 本については医療支援センター南側の中庭に移設するため、掘削の立会調査を実施する予定であった。しかし、10 本のうち 7 本は過去の工事で 1.5 m 以上の掘削を行った場所であること、掘り方の掘削深度が 0.3 m 前後となったことから、遺構が存在したとしても影響を与える可能性が低いと判断し、立会は実施しなかった。

7) (震) 研究棟 C 改修機械設備工事

所在地 広島市南区霞一丁目 2 番 3 号

調査期間 2018 (平成 30) 年 3 月 8 日

調査面積 約 201 m²

調査者 藤野次史

調査概要 (震) 研究棟 C 改修機械設備工事に伴って立会調査を実施した (第 17 図 7)。調査区の規模は、幅 (南北) 70cm、長さ (東西) 約 16.9 m である (第 29 図)。調査区西端で約 90cm、中央部で約 80 ~ 85cm、東端で約 75cm の掘削を行った。西端から東へ約 2.7 m までは、舗装および基礎碎石層の下層に、灰黒色～黒色粘質土 (煉瓦片、灰色瓦を含む)、褐色～黄褐色真砂土、黄褐色～灰褐色粘質土、橙褐色砂質土 (真砂土) の順で堆積していた (写真 21-3)。西端から東へ約 2.7 m より東側は、すべて工事埋積土であった (写真 21-4)。遺構・遺物ともに発見されなかった。

8) (病) YHR ミュージアム新営工事

所在地 広島市南区霞一丁目 2 番 3 号

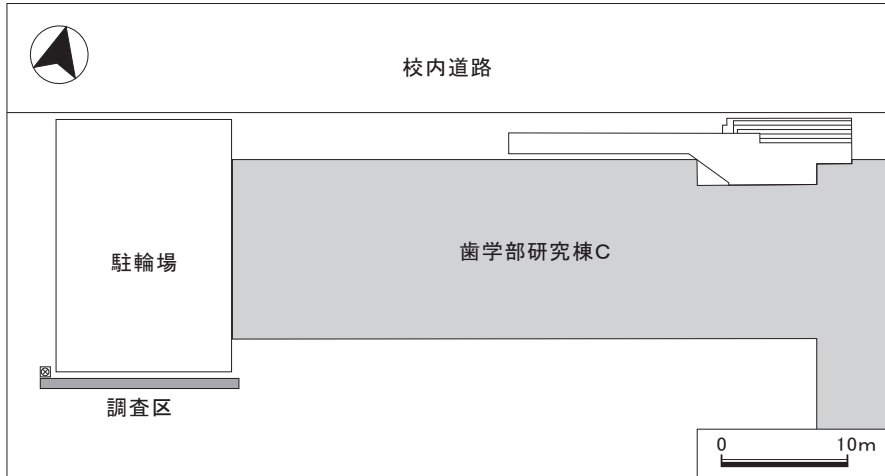
調査期間 2018 (平成 30) 年 3 月 13 日～ 15 日

調査面積 約 700 m²

調査者 藤野次史、石丸恵利子、大近美穂

調査概要 (病) YHR ミュージアム新営工事に伴って試掘調査を実施した (第 17 図 8)。調査対象地はミュージアム建物および建物周辺の外構予定地である (第 30 図)。調査区は対象地中央部付近に南北方向の幅 2 m の調査区 (1 区)、建物予定範囲の中央部に幅 2 m の東西方向の調査区 (2 区) を設置した (第 20 図 1 区・2 区)。なお、調査対象地南端部および東部については通路として利用されていることから調査を実施することはできなかった。また、調査対象地の北端部についても工事計画の関係から調査することができなかった。

1 区は北端部および南端部について約 2 m まで掘り下げ、その他は約 1.5 m まで掘り下げを行った (写真 22-1 ~ 3)。また、調査区北部に水道施設があり、その部分 (第 20 図



第 29 図 (震) 研究棟 C 改修機械設備工事調査区平面図 (縮尺 1 : 600)



21-1 調査区全景 (西より)



21-2 掘削状況 (南西より)

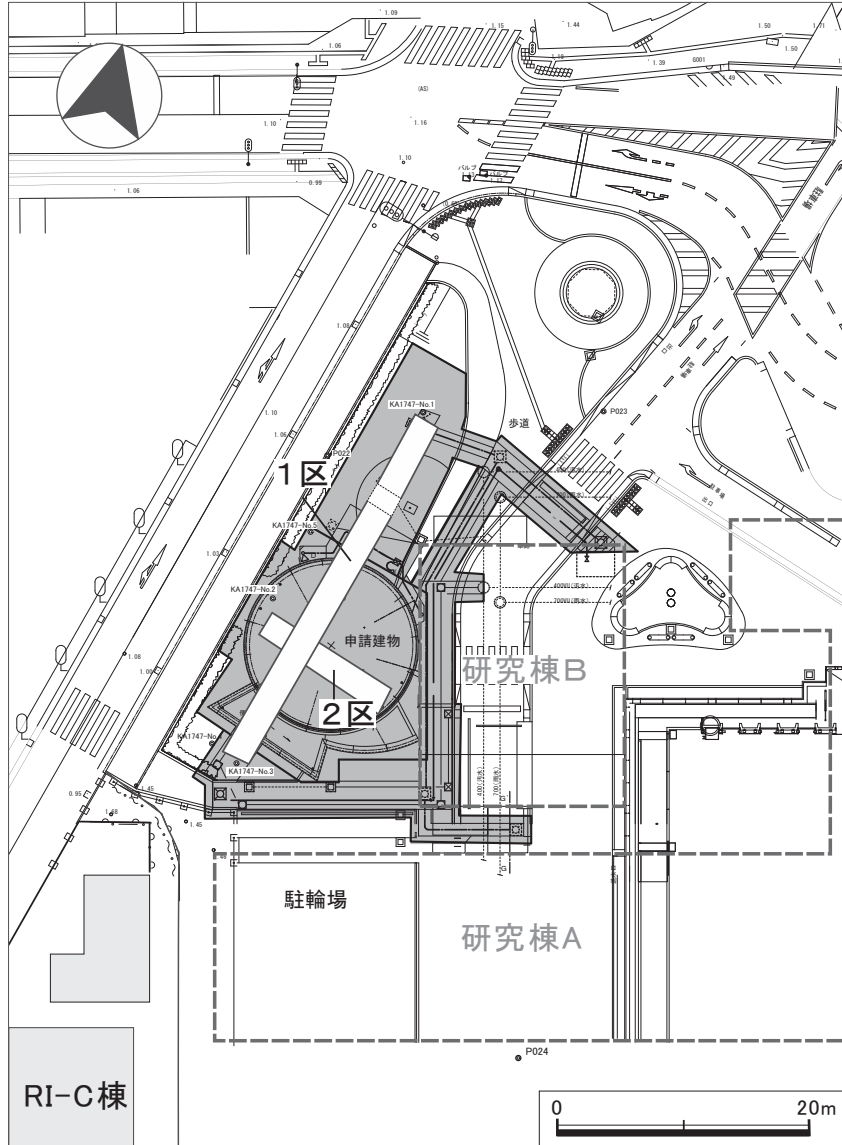


21-3 調査区西部土層堆積状況 (北東より)



21-4 完掘状況 (東より)

写真 21 (震) 研究棟 C 改修機械設備工事に伴う立会調査



第30図 (病) YHRミュージアム新営工事試掘調査区平面図 (縮尺 1 : 600)

(濃い灰色部分が工事対象範囲、1区・2区が試掘調査区、破線(研究棟A および研究棟B) は旧原爆放射線研究所建物)

1区破線部分)は残して調査を行った。上層より、表土層、橙褐色砂質土(さくらの庭造成土)、暗灰褐色砂質土(複数枚に細分可能)、黒色土(灰、炭を多く含む層、複数枚に細分可能)、黄褐色～橙褐色砂質土(兵器支廠(補給廠)造成土、複数枚に細分可能、下層は大型角礫を多く含む)、暗青灰色砂質土(水田層)、青灰色砂質土～砂層(水成層)の順で土層堆積が認められた(写真22-2・3)。2区は西端部を約2mまで掘り下げ、



22-1 1区北半部完掘状況（北より）



22-2 1区北部東壁土層堆積状況（北より）



22-3 1区南半東壁土層堆積状況（北西より）



22-4 2区南壁土層堆積状況（北西より）



22-5 2区南壁土層堆積状況（北東より）



22-6 2区南壁黒色土堆積状況（北より）

写真 22 (病) YHRミュージアム新営工事に伴う試掘調査

その他は約1.5mまで掘り下げた(写真22-4～6)。土層の堆積状態は1区とほぼ同様であったが、調査区東部において兵器支廠(補給廠)造成土の上面が東側に向かって徐々に高くなり、造成土上面が高くなり始める付近で黒色土の堆積が終わっていた(写真22-6)。1区、2区ともに遺構は検出されなかった。なお、黒色土を中心に、第二次大戦後を中心とする陶磁器、ガラス瓶、鉄製品、ビニール紐等が出土した。

調査対象地は旧宇品線および上大河駅(比治山駅)が隣接する広島陸軍兵器支廠(補給廠)の敷地であったことから、関連の遺構が残されている可能性があったが、調査では関連遺構を含めて遺構は検出されなかった。

9) (震) 臨床第2研究棟1階解剖室等改修工事における外構工事

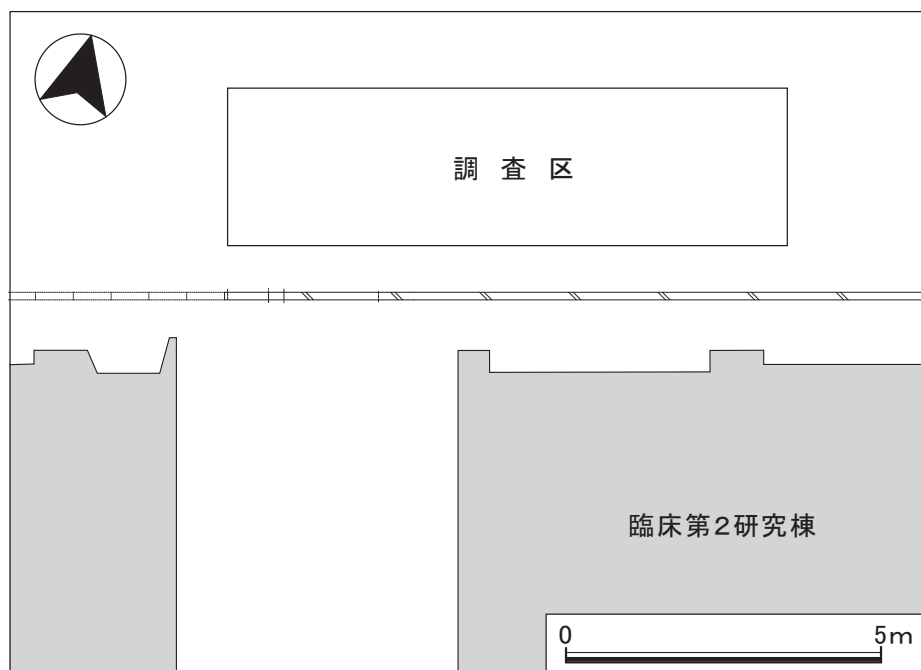
所在地 広島市南区霞一丁目2番3号

調査期間 2018(平成30)年3月23日

調査面積 約50㎡

調査者 藤野次史

調査概要 (震) 臨床第2研究棟1階解剖室等改修工事における外構工事に伴って立会調査を実施した(第17図9)。調査区は臨床第2研究棟の北側隣接地に



第31図 (震) 臨床第2研究棟1階解剖室等改修工事調査区平面図(縮尺1:120)



23-1 調査区全景（北東より）



23-2 掘削状況（南西より）



23-3 完掘状況（西より）



23-4 コンクリート構築物（南より）

写真 23（霞）臨床第2研究棟1階解剖等改修工事における外構工事に伴う立会調査

位置し、東西約 8.9 m、南北 1.5 m の規模である（第 31 図）。地表下約 0.4 m に電気配線、地表下約 0.5 m にヒューム管（排水管）が布設されていた。ヒューム管は調査区の中央部付近に東西方向に布設されており（写真 23-3）、布設に伴って調査区のほぼ全域が地表下 1 m を超える掘削が行われたと推定された。ヒューム管を撤去して屋根基礎を設置することはできないことから、掘削深度を浅くし（ヒューム管上面までとし）、建物側（南側）に掘り幅を 1 m 拡張し、基礎の面積を拡大して強度を確保することとなった。これに伴って調査区を南側へ 1 m 拡張し、ヒューム管上面まで掘削した。したがって、最終的には、東西約 8.9 m、南北約 2.5 m、深さ 0.5 m の規模で掘削を行った。拡張部の一部は臨床第 2 研究棟建物掘り方内で、拡張部についても、北側同様、すべて工事埋土であった。

調査区西端部で排水桝と推定されるコンクリート構築物が残されていた（写真 23-4）。上面がアスファルト碎石層下底であることから既設駐車場の建築以前の地表に設置されていた

ものと推定される。コンクリート柵の内部は鉄棒がはめられており、内部には黒色土が充填されていた。

東千田地区（広島市）

1)（東千田）構内舗装補修

所在地 広島市中区東千田町一丁目1番89号

調査期間 2017（平成29）年7月13日

調査面積 約70㎡

調査者 藤野次史

調査概要（東千田）構内舗装補修に伴って立会調査を実施した（第32図1）。掘削



24-1 調査区全景（南東より）



24-2 掘削状況（南西より）

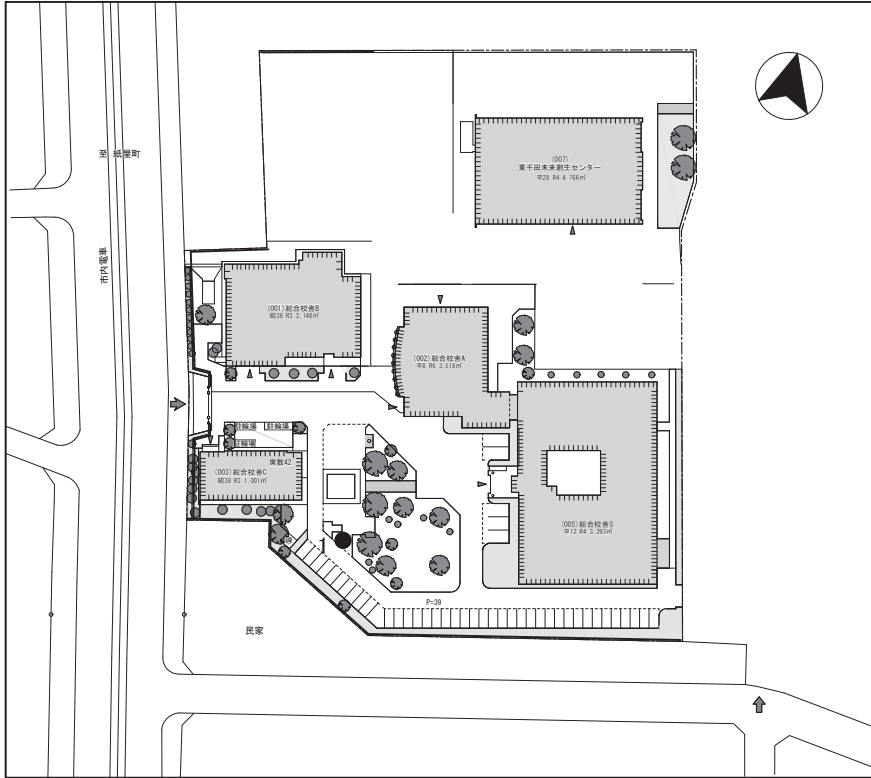


24-3 土系舗装範囲完掘状況（西より）

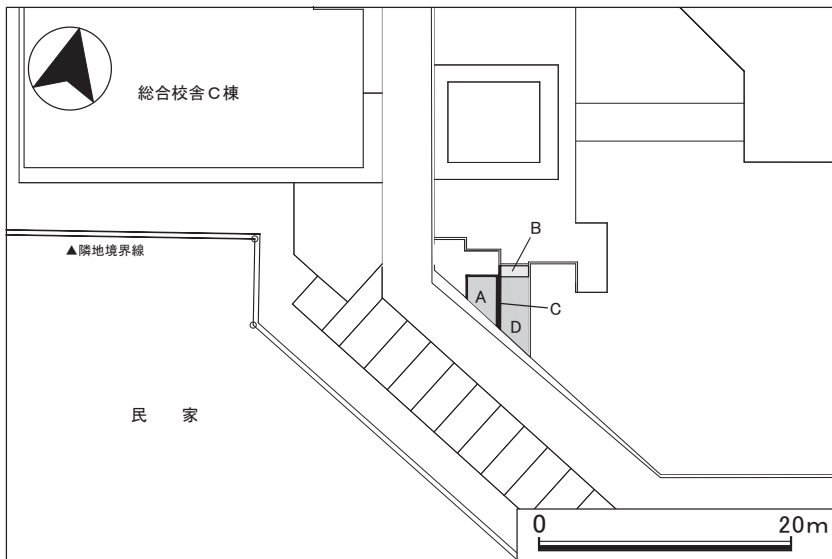


24-4 縁石掘り方完掘状況（北西より）

写真24（東千田）構内舗装補修に伴う立会調査



第 32 図 2017 年度東千田地区立会調査位置図 (縮尺 1 : 3000)
 (1. (東千田) 構内舗装補修)



第 33 図 (東千田) 構内舗装補修に伴う立会調査区平面図 (縮尺 1 : 600)
 (A: 石張りタイル撤去・土系舗装範囲、B: 板石設置のための掘削範囲、C: 縁石掘り方、D: 石張りタイル)

深度は最大で0.4 m程度であったが、これまで開発対象地周辺で調査を行ったことがなく、堆積状況を確認するため、石張りタイル撤去・土系舗装工事に伴う掘削について立会調査を行った（第23図）。掘削範囲は、当初の計画が変更となり、石張りタイル撤去・土系舗装の範囲が西側の半分のみとなった（東西2.6 m、南北約7 m）。調査時にはすでに石張りタイル撤去範囲の石張りはすべて撤去された状況で、地面が露出していた（写真24-1・2）。石張りタイル基礎の下層には暗黄褐色砂質土が堆積していた。舗装にあたっては表層を均す程度で、基本的に掘削は行わなかった。また、北側の縁石設置予定部分についても板石（1枚もの）の設置に変更となった。掘り方は、東西2.2 m、南北0.6 m、深さ約0.15 mである。石張りタイル撤去・土系舗装部分同様、石張りタイルを撤去するのみで、基本的に掘り下げは行わなかった。土系舗装範囲（石張りタイル撤去範囲）の東縁に、東西0.3 m、南北約4.1 m、深さ約0.4 mの縁石掘り方を掘削した（写真24-4）。広島大学統合移転後の盛土と考えられ、堆積層中から飲料水アルミ缶片、軍手などが出土した。

竹原地区（竹原市）

1)（竹原）実験・研究棟屋外給水管修繕

所在地 竹原市港町五丁目8番1号

調査期間 2017（平成29）年12月8日

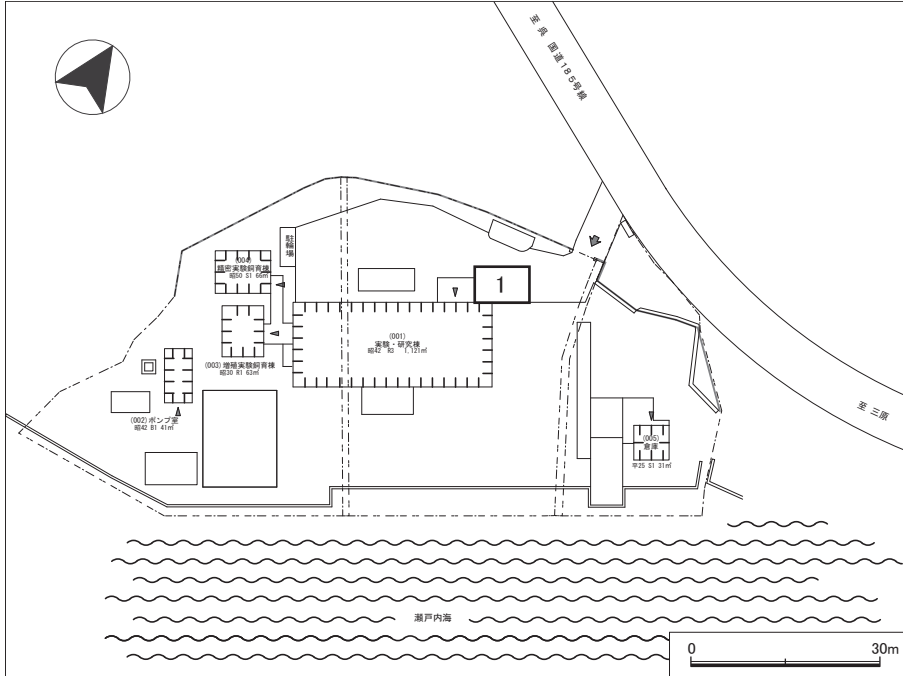
調査面積 9.0 m²

調査者 藤野次史

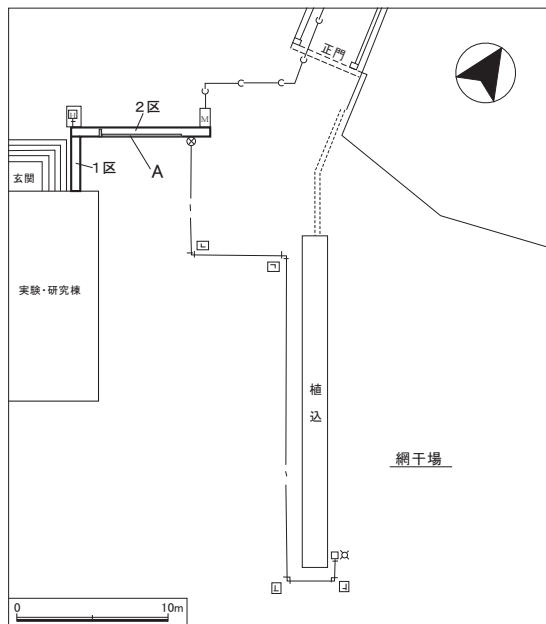
調査概要（竹原）実験・研究棟屋外給水管修繕に伴って立会調査を実施した（第34図1）。調査区平面はL字形で、南北方向の調査区（実験・研究棟玄関東隣接部）を1区、東西方向の調査区を2区として調査を行った（第35図）。調査区の幅は約0.6 m、1区は長さ3.6 m、2区の長さは9.2 mである。

1区 深さ約0.6 mまで掘削した。埋土は暗灰褐色砂質土で、すべて給水管掘り方の埋土と判断される。既存の給水管は地表下約0.45 mで確認し、給水管の下底部まで掘削した。なお、南端から1.75 m北側の東壁付近で土管が出土した。東西方向に設置されていたが、大半は給水管布設の際に撤去されていた。元々は、調査区東側に位置する雨水桝に流れ込んでいた排水管と考えられる。

2区 深さ約0.6 mまで掘削した。堆積土は基本的に暗灰褐色砂質土であるが、東端部の給水施設桝付近では淡黄褐色砂質土（厚さ約10 cm）が間層として認められ、上下に区分可能であった。いずれも工事埋積土と判断された。調査区南端部でコンクリート壁を検



第 34 図 2017 年度竹原地区立会調査位置図 (縮尺 1 : 1,200)
 (1. (竹原) 実験・研究棟屋外給水管修繕)



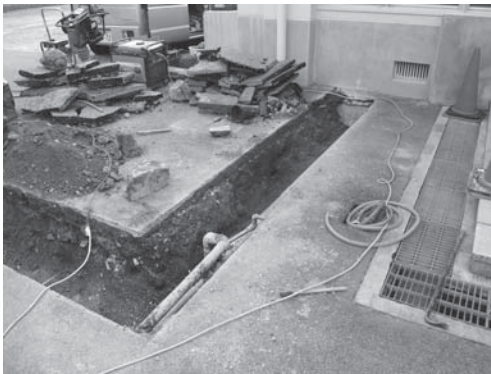
第 35 図 (竹原) 実験・研究棟屋外給水管修繕調査区位置図 (縮尺 1 : 500)
 (1 区、2 区は調査区、A はコンクリート壁である)



25-1 調査区全景（西より）



25-2 1区掘削状況（南西より）



25-3 1区完掘状況（西より）



25-4 2区東西コンクリート壁検出状況（北東より）



25-5 2区西端部コンクリート・ブロック検出状況（北より）



25-6 2区西端部南北コンクリート壁検出状況（西より）

写真 25（竹原）実験・研究棟屋外給水管修繕に伴う立会調査

出した。コンクリート壁の西端は調査区西端から約 1.9 m 東に位置し、東西 5.25 m 分を検出した（写真 25-4）。コンクリート壁上面は、地表下 0.25 ～ 0.35 m に位置し、上部が削平された状態であった（コンクリート壁の厚さは未確認）。壁面は掘り底より下方に連続しており、東端部で深掘りして確認したところによると、下底部は地表下約 0.75 m であった。コンクリート壁西端部に接して、南北方向のコンクリート壁を検出した（写真 25-6）。長さ（南北）38cm、幅 16cm の規模で、北側は削平されていた。上面は深さ約 0.3 m に位置する。上部に断面 16cm 角、長さ約 50cm のコンクリート・ブロックが位置していた（写真 25-5）。南北のコンクリート壁上に直接配置されていた可能性があるが、検出時に下底面以下の調査を行わずにバックホウですぐに撤去したため、下層のコンクリート壁との関係を確認していない。また、調査区東部では南側の既設給水管と接続するため、東西約 0.6 m、南北約 0.8 m の範囲を深さ約 1 m まで掘削して、給水管を露出させた（深堀部の東辺は調査区東端から約 2 m である）。

コンクリート壁の時期・性格は不明であるが、現在の実験・研究棟が建設される以前の建物基礎と推定される。かつて所在した理論物理学研究所建物配置図（広島大学理論物理学研究所 1959）によると、今回の調査で検出したコンクリート壁付近の南側に研究所本館建物が位置しているが、コンクリート壁付近には建物等の構築物の記載はない。建物配置図は略図であるため、詳細な位置関係を明らかにすることは困難であるが、少なくとも今回検出の遺構が理論物理学研究所建物そのものではないことは肯首できよう。しかし、建物に近接する位置であることから、浄化槽等の旧理論物理学研究所本館に関連した施設である可能性は高い。現状では、遺構の詳細を明らかにすることはできないため、これ以上の考察は困難である。

なお、2 区西端部の南北方向のコンクリート・ブロック、コンクリート壁の一部は撤去したが、東西方向のコンクリート壁については、調査区南端に位置し、配管作業に邪魔とはならないことから現状保存した。南北コンクリート壁下部についてもこれ以上掘削を行わないことから保存した。

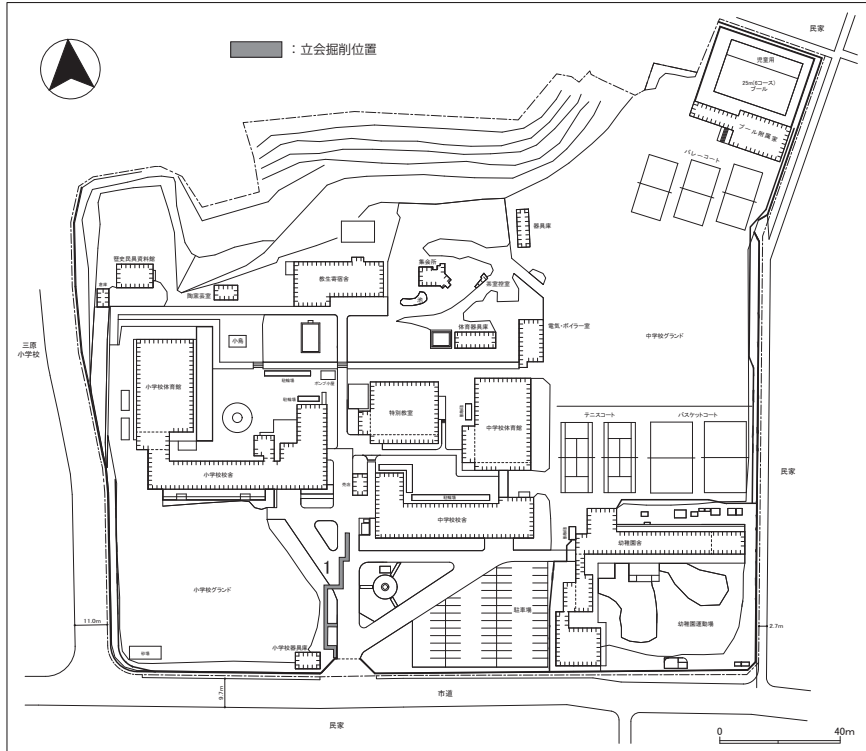
三原地区（三原市）

1) 中学校屋外散水栓用給水管修繕

所在地 三原市館町二丁目 6 番 1 号

調査期間 2017 年 12 月 5 日・6 日

調査面積 約 30 m²



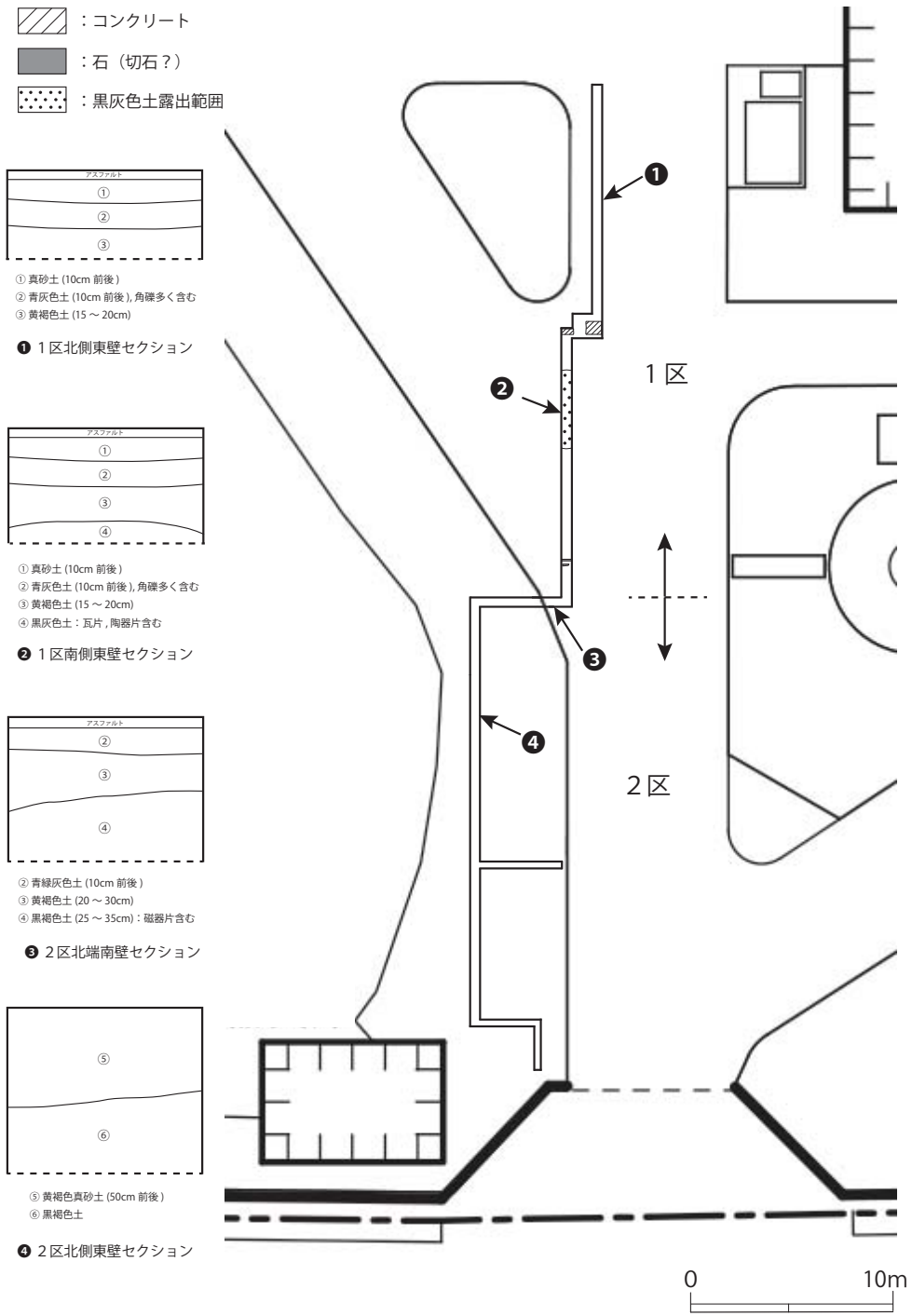
第 36 図 2017 年度三原地区の立会調査位置図 (縮尺 1 : 2,500)

(1. 中学校屋外散水栓用給水管修繕)

調査者 石丸恵利子

調査概要 三原地区において、中学校屋外散水栓用給水管の漏水に伴い、これを修繕するための掘削が予定され、工事に立ち会い地下の堆積状況の確認を行った (第 36 図)。

1 区 掘削場所は、校門から中学校校舎と小学校校舎の間に通ずる道路沿いと小学校グラウンド敷地内である。小学校校舎東端の南側にある花壇から東に 1 m にある止水弁の場所から掘削を開始し、幅約 0.5 m、深さ約 0.5 m (止水弁地点は深さ 0.9 m) で南に約 13 m の掘削を行った。1 区北側では、約 0.05 m のアスファルトの下は、約 0.1 m の真砂土、0.1 m 前後の角礫を多く含む青灰色土、0.15 から 0.20 m の黄褐色土の堆積を確認した (第 37 図の①)。1 区中央辺りでは、地表下約 0.2 m の場所で南北幅約 0.65 m、厚さ 0.25 m のコンクリート構築物を確認した。除去が困難であったため、約 1.5 m 西側にルートを屈曲させて掘削を継続した。コンクリートは検出地点の西側が一部除去されてガス管が埋設されており、その上部に給水管を通し、さらにガス管の西側に沿って南側に約 13 m、幅 0.5 m、深さ 0.5 m の掘削を行った。屈曲部分から南に約 2 m の部分から約 6 m の範囲で黒灰色土



第 37 図 中学校屋外散水栓給水管修繕工事調査区平面図および土層断面柱状図 (縮尺 1 : 350)



26-1 1区掘削後（南西より）



26-2 1区中央西壁壁面（東より）



26-3 3区掘削風景（東より）



26-4 2区石列検出状況（北より）



26-5 3区西側南壁壁面（北東より）



26-6 4区掘削後北側（南東より）

写真 26 中学校屋外散水栓用給水管修繕の調査

が広がっており（地表下約 0.4 m）、埋土より瓦や陶・磁器片が出土した（第 37 図の②）。詳細な時期は今後確認する必要はあるが近代相当のものだと考えられる。また、屈曲部分から南に約 10 m の地点で、幅 0.15 m の花崗岩の切り石が 0.25 m の間隔で平行に敷かれた状態で検出された（東西の長さ 0.35 と 0.45 m、高さ（深さ）0.25 m 前後）。両石間の埋土は黄褐色のやや粘性土が含まれており、溝の両端に敷かれた石列の可能性はある。

1 区屈曲部のコンクリート構築物は、東西側ともに掘削範囲外に延びており、高等女子師範学校の建物基礎などの可能性もあるが、この度の調査においては明らかにすることはできなかった。今後の周辺調査において注視する必要がある。

2 区 掘削開始の北端から約 26 m を 1 区とし、さらに西側に屈曲させて小学校運動場内の範囲を 2 区とした。道路から運動場側は一段高くなっており、境のコンクリート縁石は壊さず、その下をトンネル状に給水管を通すこととし、道路側は地表下約 0.7 m の深さまで掘削した。屈曲部分の南壁セクションにおいては 1 区で確認できた真砂土は確認されず、④層と同様な黒褐色土が地表下 0.35 から 0.45 m 以下で確認され、磁器片等が含まれていた（第 37 図の③）。掘削範囲が狭小であるため、土坑などの遺構なのか、あるいは整地土なのかは明らかにすることはできていない。1 区の黒灰色土に含まれる磁器類と同時期（近代）の遺物と考えられる。

運動場側地表面は 1 区南端より約 0.4 m 高くなっているが、2 区の南端で道路面とほぼ同じ高さに堆積している。屈曲部から西に約 5 m、さらに南に約 23 m の範囲を幅 0.4 から 0.5 m、深さ 0.5 から 0.8 m で掘削した結果、植栽部分で多くの根が入り込んでいたが、運動場の整地層と考えられる 0.4 から 0.5 m の黄褐色真砂土、それより下層は黒褐色土の堆積を確認した（第 37 図の④）。遺物は確認されていない。

以上のように、本調査区においては掘削範囲が狭小であったため、堆積の面的広がりには確認できなかったが、道路面で地表下 0.4 m 以下の黒灰色土に遺物が含まれており、廃棄土坑あるいは整地土の堆積が想定される。また、コンクリート構築物や花崗岩の切り石列の一部が検出されたことより、近代の構築物が残されている可能性が示唆されることから、道路面においても地表下 0.4 m 以上の掘削が行われる場合は、地下の堆積を確認する必要がある。

3. 小 結

2016 年度は、東広島市東広島地区 5 件、広島市霞地区 9 件、東千田地区 1 件、竹原市竹原地区 1 件、三原市三原地区 1 件の立会・試掘調査を実施した。このうち、霞地区（5ヶ

所) および竹原地区 (1ヶ所)、三原地区 (1ヶ所) で遺構を確認した。

霞地区では、(霞) 臨床研究棟周辺等駐輪場取設工事 (駐輪場 E)、(霞) 看護師宿舎等舗装改修、(霞) 研究棟C改修その他工事、(病) ロータリーサクラ移植工事において遺構が検出された。(霞) 臨床研究棟周辺等駐輪場取設工事駐輪場 E、(霞) 研究棟C改修その他工事は霞地区北西部の薬学部研究棟の西側に近接して位置しており、コンクリート床、コンクリート基礎などが検出された。これらの工事の隣接地では、2013年度の薬学部西側立体駐車場新営工事(藤野 2016b)、2014年度の霞会館北側渡り廊下設置工事(藤野・石丸 2017a)、霞地区北西部渡り廊下設置工事(藤野・石丸 2017b)の調査が行われており、同様の遺構を検出している。同一遺構の一部を構成するものと考えられる。薬学部西側立体駐車場新営工事調査区の一部検出遺構については、旧広島陸軍兵器補給廠(支廠)の具体的な施設を同定することが可能であった。今回の検出のコンクリート床等の構築物は、薬学部西側立体駐車場新営工事地区検出のコンクリート床(SX04)と同一遺構と判断される。SX04南端にはコンクリート基礎がコンクリート床沿いに東西方向に構築されており、臨床研究棟周辺等駐輪場取設工事駐輪場Eで検出したコンクリート基礎はその延長線上に位置している。SX04上には大型建物(SB01)などが構築されており、部屋の仕切り壁等の一部と推定される煉瓦積みの痕跡が検出されている。今回、研究棟C改修その他工事地区のコンクリート床2上で検出した煉瓦・コンクリート構築物も同様の遺構と考えられる。

(霞) 看護師宿舎等舗装改修では、看護師宿舎地区、総合研究棟南地区で遺構が検出された。看護師宿舎地区1区ではコンクリート床、煉瓦積み壁を検出した。調査面積が狭く、詳細不明であるが、看護師寮建設以前に存在した広島大学附属攻学寮、あるいは旧広島陸軍兵器補給廠(支廠)の関連遺構と推定される。総合研究棟南地区1区ではコンクリート構築物、コンクリート床および大学病院食器廃棄土坑、2区ではコンクリート構築物を検出した。1区のコンクリート構築物は構造から推定して浄化槽の可能性がある。第二次世界大戦後の遺構と思われ、医学部移転後に構築された可能性が高い。コンクリート床はアスファルト道路碎石層直下で検出した。コンクリートに骨材として多量の円礫を含み、コンクリート床西端部断面では床面下に丸栗層、角栗層の構造が確認できることなどから、旧広島陸軍兵器補給廠(支廠)関連遺構と推定される。しかし、こうした構造が確認できたのはコンクリート床の一部であり、これまでの同種遺構ではコンクリート床下全面にしっかりした基礎構造が構築されていたが、今回の遺構では一部のみであったこと、コンクリートの厚さがやや薄く、特に東側では10cm、あるいはそれ以下の厚さであったことなどの相違が指摘される。これまで検出した同種の遺構は、建物床・基礎、道路などと推定されるが、こ

れらとは今回の遺構は性格が異なるのかもしれない。

(病) ローターサクラ移植工事 16 区では石製構築物を検出した。小面積であるため構造や遺構の広がりを確認することはできず、詳細は不明であるが、2013 年度の新外来診療棟外構工事（擁壁設置工事）地区で石垣状遺構を検出しており（藤野 2016a）、関連遺構と想定される。調査地は、旧宇品線隣接地であり、鉄道関連遺構、あるいは旧広島陸軍兵器補給廠（支廠）の西境界の関連遺構の可能性がある。

(竹原) 実験・研究棟屋外給水管修繕では 2 区でコンクリート壁が検出された。東西に主軸をもつ構築物と思われ、南端と西端の一部を検出したものと推定される。調査面積がわずかで、工事掘り方底の下層に遺構が連続していることなどから、詳細は不明である。現在の研究棟建設以前に存在した広島大学理論物理学研究所に関連する遺構の可能性がある。今後の調査で内容や時期など明らかにしたい。

三原地区中学校屋外散水栓用給水管修繕では、コンクリート構築物、花崗岩切石列が検出された。調査面積が狭いため、時期や内容を十分に明らかにすることはできなかったが、旧広島女子師範学校に関連する遺構の可能性があり、今後十分に注意する必要がある。

引用文献

広島大学理論物理学研究所 1959 『広島大学理論物理学研究所要覧 1959』

藤野次史 2016a 「新外来診療と外構工事⑥擁壁設置工事」『広島大学埋蔵文化財調査研究紀要』第 7 号、広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門、70～73 頁。

藤野次史 2016b 「薬学部西側立体駐車場新営工事」『広島大学埋蔵文化財調査研究紀要』第 7 号、広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門、73～94 頁。

藤野次史 2018 「臨床研究棟改修工事」『広島大学埋蔵文化財調査研究紀要』第 9 号、広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門、30～31 頁。

藤野次史・石丸恵利子 2017a 「霞会館北側渡り廊下設置工事」『広島大学埋蔵文化財調査研究紀要』第 8 号、広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門、49～54 頁。

藤野次史・石丸恵利子 2017b 「霞地区北西部渡り廊下設置工事」『広島大学埋蔵文化財調査研究紀要』第 8 号、広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門、54～62 頁。